

医学教育分野別評価
千葉大学医学部医学科
年次報告書
2023（令和5）年度

評価受審年度 2020（令和2）年

令和5年8月

千葉大学医学部



begin.continue

千葉大学大学院医学研究科・医学部

医学教育分野別評価 千葉大学医学部医学科 年次報告書

2023(令和5)年度

医学教育分野別評価の受審 2020(令和2)年度

受審時の医学教育分野評価基準日本版 Ver.2.32

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.35

はじめに

本学医学部医学科は、2020年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2021年10月1日より7年間の認定期間が開始した。評価結果のうち、特に部分的適合と評価された項目を中心に、次回受審までに改善に努める予定である。今回、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.35を踏まえ、2023年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2022年4月～2023年3月31日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.35の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

領域1.3の改善のための示唆を受け、千葉大学医学部学生の卒業時の学修アウトカムの改訂を行った。領域1.4の改善のための助言や示唆に示されたように、改訂において、学生や職員などの主要な教育の関係者や、より広い範囲の教育の関係者からの意見を聴取した。改訂した千葉大学医学部学生の卒業時の学修アウトカム等については、領域1.1の改善のための助言を受け、広く教員および学生に周知を行う予定である。

1.1 使命

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・千葉大学憲章、医学部のミッション、教育目標が明示され、これらを医学部の使命としている。

改善のための助言

- ・使命としている千葉大学憲章、医学部のミッション、教育目標、それぞれの関係性を整理し、明示すべきである。
- ・使命を学生、教員など教育の主要な関係者に周知すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・千葉大学憲章および千葉大学行動規範（理念と目標）、医学部のミッション、医学部学生の学習成果（アウトカム）が千葉大学や千葉大学医学部のホームページに掲載されているが、学生、教員への周知の機会は限られている。

【今後の計画】

- ・千葉大学医学部のホームページに掲載されている千葉大学憲章および千葉大学行動規範（理念と目標）、医学部のミッション、医学部学生の学習成果（アウトカム）について、医学教育リトリートなどの機会に学生および教員に周知を図る。

改善状況を示す根拠資料

資料B1.1-1 千葉大学医学部の使命とアウトカム（千葉大学医学部HP）

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/edu/undergraduate/>

資料B1.1-2 千葉大学医学部の使命とアウトカム（ポスター版）

資料B1.1-3 教育目標（千葉大学医学部HP）

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/edu/goal/>

資料B1.1-4 千葉大学憲章、千葉大学行動規範（理念と目標）（千葉大学医学部HP）

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/edu/outline/>

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・千葉大学および医学部の使命として、質の高い医学研究への志向が示されている。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・医学研究の達成については学修成果に記載があるものの国際的健康、医療の観点も含むような学修成果は記載されておらず、昨今の新興感染症による国際社会の状況も踏まえた学修成果の改訂のための議論を医学教育研究室等で検討を行い、医学部学生の学習成果（アウトカム）に反映させた。

【今後の計画】

- ・今後も、医学研究の達成や国際的健康、医療の観点から、適宜医学部学生の学習成果（アウトカム）等の改訂を行っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q1. 1-1 アウトカム改訂のフローチャート

資料 B1. 1-2 千葉大学医学部の使命とアウトカム（ポスター版）

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・学部学務委員会のもと、基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会が自律性をもって教育施策を構築し、実施している。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・学部学務委員会、基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会および教育担当副学部長が自律性をもってカリキュラムの作成や改訂を行い、カリキュラムを実施するための資源の活用について検討している。
- ・感染予防のため対面授業の制限や人数制限があるコロナ禍の対応が終了した後も、多くの授業が ICT を活用したカリキュラムに移行できている。

【今後の計画】

- ・ウィズコロナ時代に対面授業が再開された中で、ICT を活用したさらなる効果的、効率的な授業の確立を進めていく。

改善状況を示す根拠資料

資料 B1. 2-1 医学研究院・医学部常置委員会委員一覧（2022年7月1日現在）

資料 B1. 2-2 ICT を利用した臨床実習に関する当施設から実践報告論文

(Alternative approaches for clinical clerkship during the COVID-19 pandemic: online simulated clinical practice for inpatients and outpatients-A mixed method. [BMC Medical Education])

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・ 現行のカリキュラムや教育科目の実施において教員および学生の自由が保障されている。
- ・ 学部学務委員会、基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会や医学教育リトリート等において、カリキュラムに関する教員や学生の自由な意見を参照している。

【今後の計画】

- ・ 今後も教員と学生を交えたカリキュラム評価および改善を継続していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 B1. 2-1 医学研究院・医学部常置委員会委員一覧（2022年7月1日現在）

資料 Q1. 2-2 2022年度医学教育リトリート実施要領

1.3 学修成果

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・ 医学部の使命に関連付けて、6つのコンピテンストと36のコンピテンシーを制定し、明示している。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・ 昨今の新興感染症による国際社会の状況、社会情勢も踏まえ学修成果の改訂を行った。例として、2022年度版では、V. 社会と医療「健康の社会的決定要因(Social Determinants of Health: SDH)の観点」「個人から地域・国際社会、地球環境に至るまでの保健・医療・福祉の課題評価」を学修成果に加えた。

【今後の計画】

- ・ 今後も引き続き学修成果について医療の進歩や変化、社会情勢、国際社会の状況も加味した改訂を行っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q1. 1-1 アウトカム改訂のフローチャート

資料 B1. 3-2 千葉大学医学部の使命とアウトカムの改訂案

資料 B1. 3-3 学修成果の 2022 年度版(改訂案)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・国際保健に関して目指す学修成果について注目することが期待される。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・国際保健を含め、昨今の新興感染症による国際社会の状況も踏まえた学修成果の改訂を行った。2022 年度版では、V. 社会と医療「個人から地域・国際社会、地球環境に至るまでの保健・医療・福祉の課題を評価できる。」を学修成果に加えた。

【今後の計画】

- ・今後も国際社会の状況も踏まえた国際保健、社会情勢、医療の進歩や変化などを学修成果に反映させていく。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q1. 1-1 アウトカム改訂のフローチャート

資料 B1. 3-2 千葉大学医学部の使命とアウトカムの改訂案

資料 B1. 3-3 学修成果の 2022 年度版(改訂案)

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための助言

- ・使命と学修成果の見直し・策定には、教員のみならず、学生や職員など主要な教育の関係者も参画すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・学修成果の改訂を医学教育研究室を中心として、教員以外の職員や学生も参加する教育関連委員会(学部学務委員会、基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会)、研修医、パブリックコメント等から幅広く意見収集しながら行った。
- ・2022年6月に、医学部における学修成果の達成やカリキュラムの影響を評価するため、本学を卒業した臨床研修医(千葉大学附属病院臨床研修医、千葉大学附属病院以外の臨床研修医)に対しインタビューを行った。
- ・2022年7月以降、修正 Delphi 法により教育関連委員会委員のコンセンサスを得ながら医学教育研究室を中心とし学修成果の2022年度版(改訂案)を作成した。
- ・2022年8月、医学教育リトリートにおいて教員や学生から改訂案に対して幅広く意見収集した。
- ・2022年11月、改訂案を本学看護学部、薬学部および千葉大学医学部附属病院の連絡会議の構成員に提示し意見を求めた。
- ・2022年11月、改訂案を医学部ホームページに掲載しパブリックコメントを募集した。
- ・2023年1月の教授会で改訂案について報告された。

【今後の計画】

- ・今後も、使命と学修成果の見直し・策定に、教員のみならず、学生や職員など主要な教育の関係者が参画して、研修医、パブリックコメントなどの幅広い意見収集しながら行う予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q1. 1-1 アウトカム改訂のフローチャート

資料 B1. 3-2 千葉大学医学部の使命とアウトカムの改訂案

資料 B1. 4-3 千葉大学の使命と学修目標改訂に関わる教員名簿

資料 B1. 2-1 医学研究院・医学部常置委員会委員一覧(2022年7月1日現在)

資料 Q1. 2-2 2022年度医学教育リトリート実施要領

資料 B1. 4-6 卒業時アウトカム改訂のための Delphi 法実施へのご協力をお願い

資料 B1. 4-7 学修成果の2022年度改訂案-パブリックコメント募集要項

資料 B1. 4-8 令和5年1月10日医学部教授会議事

資料 B1. 4-9 連絡会議の資料

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・学修成果の策定において、他学部の教員、実習指導者と意見交換を行っているこ

とは評価できる。

改善のための示唆

- ・使命と目標とする学修成果の策定には、患者代表や地域医療の代表者など、より広い範囲の教育の関係者からの意見を聴取することが期待される。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・2022年11月、学修成果の2022年度版(改訂案)を本学看護学部、薬学部および千葉大学医学部附属病院の連絡会議の構成員に提示し意見を求めた。
- ・2022年11月、改訂案を医学部ホームページに掲載し、パブリックコメントを募集した。
- ・以上より、学修成果の見直し・作成に、本学の学生、教職員のみならず、他学部、病院関係者、パブリックコメントを反映させる取り組みを行っている。

【今後の計画】

- ・今後も使命と学修成果の見直し・作成の際に、患者や地域医療の代表者の意見を聴取する。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q1. 1-1 アウトカム改訂のフローチャート

資料 B1. 4-7 学修成果の2022年度改訂案-パブリックコメント募集要項

資料 B1. 4-9 連絡会議の資料

2. 教育プログラム

領域 2.1 の改善のための助言、領域 2.2 および 2.4、2.6 の改善のための示唆にもとづいて、普遍教育や専門科目（専門職連携教育や行動科学など）について継続的な検証と見直しを行い、カリキュラムにおける水平的・垂直的統合を促進することが今後の課題である。また、領域 2.5 の改善のための助言および示唆にもとづいて、臨床実習の内容や指導体制を見直し、診療参加型臨床実習を充実させていくとともに、低学年で患者と接触する機会を増やすことを検討する予定である。これらの改善においては、領域 2.7 の改善のための助言、領域 2.7 および 2.8 の改善のための示唆にもとづいて、より広い範囲の関係者を含め地域や社会の意見を反映させていくことが今後の課題である。

2.1 教育プログラムの構成

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・学修成果基盤型教育（OBE）カリキュラムの継続と見直しが行われている。

改善のための助言

- ・「普遍教育」と医学部専門教育の連続性を考慮した見直しが検討されているが、新カリキュラムとなった後の再検討を継続的に実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・2020年度入学生から新カリキュラムとなり、西千葉キャンパス（全学キャンパス）の普遍教育科目の履修も継続しながら、統合数学、生物統計、AI 数理科学入門、医系生物学といった医学を学ぶ上での基礎となるような専門科目への橋渡しとなる専門基礎科目も新たに設定し、本年で3年目を迎える。2022年度終了時点で3年間を振り返り、「統合数学」、「生物統計」、「AI 数理科学入門」の数学系3科目と「医系生物学」、「基礎化学」といった専門基礎科目を検討し、「統合数学」の科目責任者の交代を行ってさらなる数学系3科目の連携強化を図ることとしている。

【今後の計画】

- ・今後も継続的に授業評価を行うとともに、現在の問題点や改善点を検討し、次年度にむけての改変を加えていく予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 1-1 医学部 医学科カリキュラム・ツリー

資料 B2. 1-2 2022年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://portal.gs.chiba-u.jp/syllabus>

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・カリキュラムの実施に、能動的学習が取り入れられている。

改善のための示唆

- ・生涯学習につながる能動的学習を、さらに充実させることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・基礎医学、臨床医学において能動的学習を取り入れた授業（生命倫理演習ユニット、導入PBL テュートリアル、麻酔・救急ユニットなど）が複数行われている。

これらの中には Google Classroom や千葉大学 Moodle（千葉大学で主に用いている学習管理システム）なども活用されている。

- ・2020 年度から、医学部 5、6 年生を対象とし、自主的に学修目標、学修計画を立案して実行するアスパイア・プロジェクトを開始しており、本年で 3 年目である。

【今後の計画】

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、過去 3 年間は海外での予定された活動が実施できなかったため、次年度以降に海外での活動を含めたアスパイア・プロジェクトを推進する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 1-2 2022 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://portal.gs.chiba-u.jp/syllabus>

2.2 科学的方法

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・学生が継続的に研究活動に参加できる機会が整備されていることは評価できる。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・以前よりスカラーシッププログラム(ベーシック、アプライド、アドバンスト)、基礎医学ゼミといった授業科目において、学生が研究活動に参加できる機会を提供するとともに、希望者にはより研究活動に携わる授業科目を行っており、今年度も継続している。

【今後の計画】

- ・今後もスカラーシッププログラム、基礎医学ゼミを継続実施し、研究活動への参画を推進する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 1-2 2022 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://portal.gs.chiba-u.jp/syllabus>

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・専門職連携教育（クリニカル IPE）の成果を、特に卒業生において検証し、より効果的な教育システムを構築することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・専門職連携教育（クリニカル IPE）は継続実施しているが、その成果については授業後アンケートおよび卒業時学生調査での専門職連携についての限られたアンケート項目に留まっている。さらに卒業生への調査は行われておらず、授業の改善計画などに役立てられていない。

【今後の計画】

- ・専門職連携教育（クリニカル IPE）を継続実施し、対象となる学生や診療科の範囲を広げるとともに、その効果を評価する枠組みを検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q2.2-1 亥鼻 IPE Step1～4 学習のまとめ 2022

資料 Q2.2-2 2022 年度千葉大学医学部卒業時学生調査 集計結果抜粋

2.3 基礎医学

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・基礎医学教育と普遍教育カリキュラムの統合を試みている。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・基礎医学教育と普遍教育カリキュラムの統合が行われ、統合数学、生物統計、AI 数理科学入門、医系生物学といった医学を学ぶ上での基礎となるような専門科目への橋渡しとなる専門基礎科目も新たに設定され、現在3年目である。

【今後の計画】

- ・上記の新たに設定された授業について、個々の授業評価のみならず、全体を通じて学生にとっての効果について検証を行い、更なる改善を検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 1-2 2022 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://portal.gs.chiba-u.jp/syllabus>

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・「生物統計」、「AI 数理科学入門」、「統合数学」など、新たなコンセプトによる専門基礎科目を開設している。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・生物統計、AI 数理科学入門、統合数学、医系生物学など、新たなコンセプトによる専門基礎科目は継続実施中である。3年間実施したところで「統合数学」、「生物統計」、「AI 数理科学入門」の数学系3科目、「医系生物学」、「基礎化学」といった専門基礎科目の振り返りを行い、「統合数学」は科目責任者を交代して、さらなる数学系3科目の連携強化を図ることとしている。

【今後の計画】

- ・数学系3科目内での連携に加え、高校数学との連携、さらに公衆衛生学などの社会医学系科目との連携を目指す。また医系生物学と既存のヒューマン・バイオロジーとの連携に加え、高校生物との連携、さらに解剖学・生理学などの基礎医学科目との連携を目指す。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 1-2 2022 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://portal.gs.chiba-u.jp/syllabus>

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・新たなカリキュラムに「行動科学」を導入している。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・行動科学と社会医学、医療倫理学に関する科目をカリキュラムに定め、実践している。

【今後の計画】

- ・科学的、技術的そして臨床的進歩、将来的な社会の必要性を予測し、学部学務委員会や基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会で定期的カリキュラムを調整する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 1-2 2022 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://portal.gs.chiba-u.jp/syllabus>

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・行動科学に関し、6年間一貫した教育プログラム全体の視点からカリキュラムの継続的な検証と見直しが見られる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・2年次に体系的に構築された行動科学をカリキュラムに定め、実践している。

【今後の計画】

- ・1年次の医学入門Ⅰ・Ⅱ、チーム医療Ⅰ（IPEⅠ）ユニット、2年次の神経科学ユニット、3年次の臨床入門Ⅰ、4年次の臨床テュートリアルⅡ（精神・神経ユニット）、5、6年次の臨床医学実習（臨床実習Ⅱ）に関して、学部学務委員会や基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会で行動科学との連携の継続的な検証と見直しを定期的に行う。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 1-2 2022 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://portal.gs.chiba-u.jp/syllabus>

資料 Q2. 4-2 2022 年度シラバス（臨床実習シラバス）

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/edu/undergraduate/syllabus/>

2.5 臨床医学と技能

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・13 診療科にアテンディングドクターを配置し、臨床実習における指導を積極的に行っていることは評価できる。
- ・臨床実習中の学生に院内医療安全セミナーへの出席を義務付けている。
- ・専門職連携教育（クリニカル IPE）と実技評価（IP-OSCE）などを導入し、他職種連携教育を積極的に行っていることは評価できる。

改善のための助言

- ・一部の重要な診療科において4週間の実習期間の中で実習が細分化されており、臨床実習を行う診療科のバランスを考慮し、診療参加型臨床実習の内容をさらに充実すべきである。
- ・アテンディングドクターの有無など、診療科や指導教員によって臨床実習の教育効果に差が出ないように、診療科間で十分に協議し、臨床実習を改善すべきである。
- ・健康増進と予防医学の体験を充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・臨床カリキュラム部会において、臨床実習の見直しについて検討した。
- ・現在、アテンディング（教育専任教員）の数を毎年増やしており各診療科に均等に割り振る試みを開始した。本年も各診療科に7名増員した。また、アテンディングFDを1ヶ月に1回実施しており、各科で行われる教育の均てん化を試みた。
- ・グランドデザイン構想 2022 2. 医学部講義・実習実施体制の再構築に、複数領域の各教員が共同で教育するシステムを再構築する事を盛り込んだ。

【今後の計画】

- ・今後、診療科でのバランスを考慮し、診療参加型臨床実習の内容を充実させる予定である。
- ・アテンディング（教育専任教員）の数を徐々に増やし、最終的にすべての診療科

に配置する予定である。

- ・千葉大学災害治療学研究所が設立され、今後、健康増進と、予防医学の体験が可能となる。
- ・臨床実習（CC）の時間配分の全面的見直しを予定しており、さらに地域医療実習をすべての学生に3週間行う事を予定している

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 5-1 アテンディングの配置に関する申し合わせ

資料 B2. 5-2 千葉大学災害治療学研究所 HP

<https://www.ridm.chiba-u.jp/about/index.html>

資料 B2. 5-3 千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想 2022

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・低学年からの患者と接触する機会をさらに増やすことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・効果的なカリキュラム構造のために、普遍教育、基礎医学教育など6年間のうちの低学年カリキュラムの変更を検討し、2020年度から新しいカリキュラムを導入した。
- ・1年次から、チーム医療Ⅰ（IPEⅠ）ユニットにおいて、患者との面談（ふれあい体験実習）を行い、3年次に医師見習い体験学習ユニットを行った。

【今後の計画】

- ・学生が早期に患者との接触機会を持ち、徐々に実際の患者診療への参画を深めていくために、チーム医療実習や、医師見習い体験学習、臨床実習などのカリキュラムの見直し等の検討を基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会、学部学務委員会にて行っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 1-2 2022年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://portal.gs.chiba-u.jp/syllabus>

資料 Q2. 2-1 亥鼻 IPE Step1～4 学習のまとめ 2022

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・カリキュラムに関して、「千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”」（全員留学等）と整合性をとりながら変更を行った。

【今後の計画】

- ・基礎医学、行動科学、社会医学および臨床医学を適切な関連と配分の明確化をさらに進める。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2.6-1 「千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”」

資料 B2.1-2 2022 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://portal.gs.chiba-u.jp/syllabus>

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・カリキュラムにおける水平的統合と垂直的統合をよりいっそう促進することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・ウイルス学、細菌学、寄生虫学および感染症ユニットを統合した「統合臨床微生物学」における水平的統合、「統合臨床薬理学」における生理学と薬理学、臨床医学の教員の相互乗り入れによる水平的統合および垂直的統合を進めた。
- ・千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想 2022 2. 基礎系と臨床

系の融合、教員組織の機能一体化に医学部教育（講義・実習）、大学院教育、研究、診療等を共同で効率よく行うための指針を盛り込んだ。

【今後の計画】

- ・医学教育リトリートにて改善に向けて検討していく。
- ・水平的統合および垂直的統合の推進により、より効果的かつ効率的な教育を実践することを目指す。
- ・2年次に実施されている行動科学を6年次までのカリキュラムと連携させていく。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q1. 2-2 2022 年度医学教育リトリート実施要領

資料 Q2. 6-2 2022 年度医学教育リトリート報告書

資料 B2. 5-3 千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想 2022

2.7 教育プログラム管理

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための助言

- ・6年間を通じた教育カリキュラムの立案と実施に、責任と権限を持つカリキュラム委員会を設置すべきである。
- ・学生のカリキュラム委員会への積極的な参加を促すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・医学教育を含めたグランドデザイン将来構想を2022年に10年振りに改訂した。
- ・基礎／普遍カリキュラム部会と臨床カリキュラム部会には学生の代表者が構成員として参画している。また定期的に医学部執行部との意見交換を行う会を設けている。

【今後の計画】

- ・教員と学生の代表者を構成員に含む、カリキュラム委員会の運営を継続する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 5-3 千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想 2022

資料 Q1. 2-2 2022 年度医学教育リトリート実施要領

資料 B2. 7-3 2022 年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 B2. 7-4 部局長と学生との懇談会について（実施報告）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・カリキュラム委員会を中心にして、6年間の教育プログラム全体の視点から、学修成果、ディプロマ・ポリシーを踏まえてカリキュラムの改善を計画し実施することが望まれる。
- ・教員と学生以外の、より広い範囲の関係者をカリキュラム委員会に含めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）の発出を受けて、臨床実習のカリキュラム改訂の計画を臨床カリキュラム部会にて作成している。
- ・カリキュラム委員会の参加者は、IR部門、文部科学省経験者、厚生労働省経験者、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）経験者など、幅広い構成となっており、6年間の教育プログラム全体の視点から改善が行われている。

【今後の計画】

- ・臨床実習カリキュラムの改訂内容並びに運用方法を策定する。
- ・医学教育リトリートにて改善に向けて検討していく。
- ・看護学部や薬学部教員に臨床カリキュラム部会の構成員として参画してもらう予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q1. 2-2 2022 年度医学教育リトリート実施要領

資料 B1. 2-1 医学研究院・医学部常置委員会委員一覧（2022年7月1日現在）

2. 8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・卒前教育と卒後臨床研修教育で共通のステークホルダーが参画し連携している。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・2020年度の医師臨床研修制度の見直しに対応した臨床実習評価システム（CC-EPOC）の導入を承認した。

【今後の計画】

- ・CC-EPOCの導入により、卒前教育と卒後臨床研修教育のシームレス化を推進する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 8-1 CC-EPOC プレスリリース資料

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・地域や社会の意見を教育プログラムの改良に十分に取り入れることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・卒前教育（医学教育研究室）と卒後臨床研修（医学部附属病院総合医療教育研修センター）が円滑な連携を行っており、病院に寄せられた意見を医学教育に反映している。
- ・専門職連携教育（クリニカル IPE）では、インタビューならびにフィールドワークのプロダクトをもとに、教育プログラムの改良を行っている。
- ・令和4年度より、大学院医学研究院に千葉県寄附講座地域医療教育学講座を開設し、さらに、地域病院にアテンディング（教育専任教員）の配置を行っており、地域病院アテンディングの配置された地域では、地域や社会の意見を聴取可能な体制が整えられた。

【今後の計画】

- ・地域や社会に関わるステークホルダー（住民、医療機関、行政）との意見交換を行い、教育プログラムを再評価ならびに改良を行う。
- ・令和5年度には新たに4名の地域病院アテンディングの配置を行いより多くの地

域からの意見を聴取可能な体制を構築する。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q2. 8-1 第 1 回地域医療教育 FD 資料

資料 Q2. 2-1 亥鼻 IPE Step1～4 学習のまとめ 2022

資料 Q2. 8-3 地域医療教育学講座 HP

<https://www.m.chiba-u.jp/class/mededu/come/index.html>

3. 学生の評価

領域 3.1 の改善のための助言および示唆にもとづいて低学年からの態度評価や臨床実習における多面的な評価を行い、これら評価の妥当性や信頼性を検証し、これら評価活動について外部の専門家による評価を受けることが今後の課題である。また、領域 3.2 の改善のために助言および示唆にもとづいて、学生が卒業時コンピテンシーを達成するためのマイルストーン評価（段階的評価）を行い、達成に向けての建設的なフィードバックをより一層行うことも今後の課題である。

3.1 評価方法

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・ Moodle を利用した wbt (web-based test) が、ほぼすべてのユニットで施行されていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 低学年から、態度を確実に評価すべきである。
- ・ 評価が外部の専門家によって精密に吟味されるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・ 2020 年度から医学部 1 年次に医学入門 I・II を導入し、低学年から医学各分野の現状と将来への展開を学修する機会を設け、MCQ (多肢選択問題) と記述式試験により評価した。
- ・ 医学部 2 年次で履修する生命倫理演習ユニットでは、事前学習課題、振り返りシート の提出を通じて倫理的な思考に関する態度について評価している。
- ・ 学外関連施設医師を対象とした FD において意見交換を行い、意見を評価に反映した。 <2020 年度自己点検評価報告書 18 頁、11/26、27 に項目のみ記載あり >
- ・ 2.5 臨床医学と技能では、「低学年からの患者と接触する期間をさらに増やすこと

が望まれる。」とされ、2020年から新カリキュラムが導入されている。更には、学生が早期に患者との接触機会を持ち、実際の患者診療への参画が検討されている（チーム医療実習、医師見習い体験学習、臨床実習の拡充、カリキュラムの見直し）。

【今後の計画】

- ・医学入門Ⅰ・Ⅱでは同時双方向型のメディア授業を実施している。今後対面による講義に変更になった場合、態度についても確実に評価できる方略を検討する。
- ・生命倫理演習ユニットにおいて、今後は対面中心の演習として態度を確実に評価する。
- ・外部の専門家（科目担当でない医学教育専門家など）によって評価が精密に評価される機会を確保する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B3. 1-1 2022 年度履修案内

資料 B2. 1-2 2022 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://portal.gs.chiba-u.jp/syllabus>

資料 B3. 1-3 2020 年度医学教育研究室年次報告書

資料 B3. 1-4 2021 年度医学教育研究室年次報告書

資料 B3. 1-5 2022 年度医学教育研究室年次報告書

資料 B3. 1-6 2020 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 B3. 1-7 2021 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 B3. 1-8 2022 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 B3. 1-9 2020 年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 B3. 1-10 2021 年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 B2. 7-3 2022 年度臨床カリキュラム部会議事要旨

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・wbt (web-based test) では試験の信頼性・妥当性の検証を行っている。

改善のための示唆

- ・wbt (web-based test) 以外の試験においても、信頼性・妥当性の検証を行うことが望まれる。
- ・CC snapshot をより多くの診療科で活用することが望まれる。
- ・ポートフォリオをより多くの学生が使用することが望まれる。
- ・外部評価者の活用が望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・学内担当医師を対象として、臨床実習前 OSCE の医療面接領域の評価方法について FD を行い信頼性・妥当性の検証を行っている。＜2020 年度自己点検評価報告書 18 頁、8/27、9/7 に項目のみ記載あり。＞
- ・新型コロナウイルス感染症によりメディア授業中心の時期があったが、FD を行うことにより学修内容や学修成果が適切に評価されるように対応した。＜2020 年度自己点検評価報告書 15～20 頁に項目のみ記載あり。＞
- ・アテンディングミーティングにおいて教員の教育業務への参加意欲向上について審議し、より多くの教員が教育（学修者評価を含む）に参画できる環境を整えている。
- ・3 年次の医師見習い体験実習において、学生は学内あるいは学外の実習先のいずれかを選択することができる。学外施設で実習した学生の評価は施設の医師が担っている。学外施設の医師は評価を行うための FD を受講している。

【今後の計画】

- ・アテンディング（教育専任教員）を医学教育に関わる全ての診療科に配置できるように検討する。
- ・アテンディング（教育専任教員）の教育業務を一般教員にも浸透するよう FD を行っていく。
- ・外部の専門家（科目担当でない医学教育専門家など）によって評価が精密に評価される機会を確保する。
- ・CC snapshot およびポートフォリオの代替として CC-EPOC を導入し、卒前教育・卒後臨床研修のシームレスな評価と施設横断的な評価を実現させる。

改善状況を示す根拠資料

資料 B3. 1-1 2022 年度履修案内

資料 B2. 1-2 2022 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://portal.gs.chiba-u.jp/syllabus>

資料 B3. 1-3 2020 年度医学教育研究室年次報告書

資料 B3. 1-4 2021 年度医学教育研究室年次報告書

資料 B3. 1-5 2022 年度医学教育研究室年次報告書

資料 B3. 1-6 2020 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 B3. 1-7 2021 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 B3. 1-8 2022 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 B3. 1-9 2020 年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 B3. 1-10 2021 年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 B2. 7-3 2022 年度臨床カリキュラム部会議事要旨

3. 2 評価と学修との関連

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・ CC snapshot や miniCEX による形成的評価と、臨床実習ブロック終了時の CPX (Clinical performance examination) による総括的評価を率先して導入した。
- ・ wbt (web-based test) を用いた形成的評価が行われていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 目標とする学修成果について、学生が達成していることを段階的に評価する方法と基準を明示し、実践すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・ 2020 年 8 月 24 日に実施した医学教育リトリートにおいて、「千葉大学医学部学生の学修成果」について KJ 法を用いて討議した。討議内容を踏まえ、「千葉大学医学部生の学修成果 (アウトカム) 2022 年度改訂版」を作成した。
- ・ 2022 年 11 月にウェブページ等を通じ、上記に対するパブリックコメントを募集した。

【今後の計画】

- ・ 医学教育リトリートにおいて学修成果についてきめの細かい議論を行い、学修成果と教育方法の整合性を高めるとともに、形成的評価と総括的評価の適切な比重により、学生の学修と教育進度の判定の指針を示していく。
- ・ 卒業時コンピテンシーの改訂に対応したマイルストーン評価 (段階的評価) について、各学年終了時に卒業時コンピテンシーの自己評価を実施することを検討する。科目別達成レベルマトリックス表に則った学修評価を継続するとともに、臨床実習においては CC-EPOC の活用を行う。
- ・ 2024 年度入学生より「千葉大学医学部生の学修成果 (アウトカム) 2022 年度改訂版」を適用する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B3. 1-1 2022 年度履修案内

資料 B2. 1-2 2022 年度シラバス (電子シラバス参照)

<https://portal.gs.chiba-u.jp/syllabus>

資料 B3. 1-3 2020 年度医学教育研究室年次報告書
資料 B3. 1-4 2021 年度医学教育研究室年次報告書
資料 B3. 1-5 2022 年度医学教育研究室年次報告書
資料 B3. 1-6 2020 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨
資料 B3. 1-7 2021 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨
資料 B3. 1-8 2022 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨
資料 B3. 1-9 2020 年度臨床カリキュラム部会議事要旨
資料 B3. 1-10 2021 年度臨床カリキュラム部会議事要旨
資料 B2. 7-3 2022 年度臨床カリキュラム部会議事要旨
資料 B3. 2-12 2020 年度医学教育リトリート報告書
資料 B3. 2-13 2021 年度医学教育リトリート報告書
資料 Q2. 6-2 2022 年度医学教育リトリート報告書

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・ 前回受審時に改善点として指摘された4年次の試験回数について適正化を図っている。

改善のための示唆

- ・ 評価結果に基づいた時機を得た、建設的なフィードバックをより一層行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・ 医学教育研究室や学部学務委員会、基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会において、評価結果にもとづいたフィードバックについて適宜検討している。

【今後の計画】

- ・ 学生や教員、教務事務を交えた医学教育リトリートや、医学教育研究室などの教育関係者による審議を継続して行い、建設的なフィードバックをより一層行う環境を充実させる。
- ・ 臨床実習に関わる大学病院アテンディングにフィードバックを含めた教育技能の指導を継続する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B3. 1-1 2022 年度履修案内

資料 B2. 1-2 2022 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://portal.gs.chiba-u.jp/syllabus>

資料 B3. 1-3 2020 年度医学教育研究室年次報告書

資料 B3. 1-4 2021 年度医学教育研究室年次報告書

資料 B3. 1-5 2022 年度医学教育研究室年次報告書

資料 B3. 1-6 2020 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 B3. 1-7 2021 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 B3. 1-8 2022 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 B3. 1-9 2020 年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 B2. 1-10 2021 年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 B2. 7-3 2022 年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 B3. 2-12 2020 年度医学教育リトリート報告書

資料 B3. 2-13 2021 年度医学教育リトリート報告書

資料 Q2. 6-2 2022 年度医学教育リトリート報告書

4. 学生

領域 4.4 の改善のための助言にもとづき、基礎／普遍カリキュラム部会や臨床カリキュラム部会の構成員である学生が、委員会活動に議決権をもち参画することが今後の課題である。

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学士編入学について、実績を検証し対応している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・ 入学者選抜は、学力検査、調査書に加えて面接試験を採用しており、受験生 1 名に対し 3 名の教員がそれぞれ異なる課題で議論し、公正かつ高い客観性をもって本学が求める医師としての資質を総合的に評価している。
- ・ 身体に不自由がある入学志願者に対する事前相談と、その申請方法の掲示を実施している。入学した学生のサポートについても同様である。
- ・ 2021 年 4 月に竣工した医学部を含む医学系総合研究棟（治療学研究棟）では「千

千葉県福祉のまちづくり条例」に基づいたバリアフリー対応が取られている。

- ・国内外の他学部や機関からの転編入について、2020年度入試より他学部卒の学士の3年次編入制度を廃止したが、基礎系研究室配属および6年一貫の研究医養成プログラム選択の推奨による対応を継続している。

【今後の計画】

- ・引き続き明確な記載、客観性の原則に基づく入学者選抜を行う。

改善状況を示す根拠資料

資料 B4. 1-1 千葉大学年度計画「入学者の受け入れ方針」の検証

資料 B4. 1-2 第3期中期計画

資料 B4. 1-3 第4期中期計画

資料 B4. 1-4 千葉大学医学部入学案内（千葉大学医学部 HP）

<https://www.m.chiba-u.jp/admissions/undergraduate/>

資料 B4. 1-5 千葉県医師修学資金貸付制度（千葉県 HP）

<https://www.pref.chiba.lg.jp/iryuu/ishi/ishikakuho/gakusei/kashitsuke.html#kakukosunogaiyou>

資料 B4. 1-6 令和5年度千葉大学一般選抜学生募集要項

- ・身体等に障害のある入学志願者の事前相談（47P）

資料 B4. 1-7 千葉大学 身体に不自由がある学生の入学許可・在籍実績について

資料 B4. 1-8 学生支援課 障害等にかかる支援・配慮申請書

資料 B4. 1-9 西千葉キャンパス バリアフリーマップ

資料 B4. 1-10 「千葉県福祉のまちづくり条例」準拠の整備項目表（医学部を含む医学系総合研究棟〔治療学研究棟〕）

資料 B4. 1-11 学生支援センター組織図

資料 B4. 1-12 基礎・普遍教育のカリキュラム改革（2019年度医学教育リトリート）

資料 B4. 1-13 第12回東日本研究医養成コンソーシアム参加者

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・入学決定に対する疑義申し立ての手続きの明文化を進めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・成績開示は平成13年度から開始しており、同年度募集要項から手続き方法を記載している。さらに詳細を求める者に対しては、法人文書の開示請求の制度により開示をしており、手続き方法は千葉大学ホームページに掲載している。以上の制度により対応をしているが、それ以上の疑義を申し立てる者はいないため、疑義申し立て制度についてもその必要性が強く認識されていない状況である。
- ・総合大学である特性上、入学者選抜に関する新たな制度の採用は全学として対応する案件となるが、現時点では疑義申し立て制度を明文化することは予定されていない。

【今後の計画】

- ・引き続き疑義の生じない入学者選抜を継続するとともに、疑義発生時には全学の方針に従い適切に対応する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B4. 1-6 令和5年度千葉大学一般選抜学生募集要項

資料 Q4. 1-2 「大学案内 法人文書の開示請求」（千葉大学 HP）

<https://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/request.html>

資料 Q4. 1-3 国立大学法人千葉大学個人情報開示請求等取扱規程

4.2 学生の受け入れ

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・教育プログラムの全段階における教育能力に応じて入学者数を定めている。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・千葉大学医学部では、入学者数を明確にしており、この入学者数は教育プログラムの全段階における教育能力に対応している。
- ・地域枠入学者数は、国の医師確保対策に準拠し、千葉県健康福祉部医療整備課と連携して策定している。
- ・2020年度開始の「千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”」に関しては、新型コロナウイルス感染症の世界的流行の影響で海外留学の中断を余儀なくされていたが、2022年度から渡航留学が部分的に再開した。
- ・地域枠入学者に対しては、一般枠入学者の卒業要件に加えて、「地域医療学」を必

修科目として開講している。

【今後の計画】

- ・引き続き、教育プログラムの全段階における教育能力に対応した入学者数を決定し、千葉県健康福祉部医療整備課と連携して策定した地域枠の入学者数とともに医学部募集要項に明示を継続する。
- ・渡航留学について、2023年度から全面再開の予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料 B4. 1-1 千葉大学年度計画「入学者の受け入れ方針」の検証

資料 B4. 1-6 令和5年度千葉大学一般選抜学生募集要項

資料 B4. 2-3 地域枠導入後の入学定員の推移

資料 B2. 6-1 「千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”」

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・千葉大学医学部では、社会における医師の役割の変化に応じ、国の医師確保対策に準拠し、千葉県健康福祉部医療整備課とも連携しながら定期的に入学定員数を検討している。
- ・「修学資金制度委員会」を常置委員会として設置し、千葉県健康福祉部医療整備課、NPO 法人千葉医師研修支援ネットワーク、地域医療で働く医師などと連携し、医師不足が深刻な地域や診療科の医療を担う医師養成に努めている。
- ・地域枠入試を既に開始し、地域医療への貢献を推進中である。

【今後の計画】

- ・引き続き定期的な入学定員数の検討、千葉県および県内の地域医療に従事する医師との連携、地域枠入試の実施を通じ、県内の医師不足が深刻な地域、診療科の医療を担う医師の養成に努める。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q4. 2-1 医学部入学者数の推移 (H29～R4)

資料 Q4. 2-2 NPO 法人千葉医師研修支援ネットワーク

<https://www.dcs-net.org/npo/>

資料 Q2. 4-2 2022 年度シラバス（臨床実習シラバス）

キャリア講演会（医療プロフェッショナルリズム WS）（p87、p88）

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/edu/undergraduate/syllabus/>

資料 B4. 1-5 千葉県医師修学資金貸付制度（千葉県 HP）

<https://www.pref.chiba.lg.jp/iryou/ishi/ishikakuho/gakusei/kashitsuke.html#kakukosunogaiyou>

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ 詳細な指導方針を規定し、それぞれの学生に教員を配置したメンター制度は評価できる。
- ・ 学務・学生支援部会、学生相談室、総合安全衛生管理機構、医学教育研究室など、複数のカウンセリング組織が機能している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・ 学業不振学生を早期に発見し、適切な介入により、6年間で卒業できる能力を修得させるための「学務・学生支援部会」が組織されている。3つの支援すなわち「学修」「経済」「キャリア形成」について担当している。

【今後の計画】

- ・ 学務・学生支援部会において、成績に問題のみられる学生等に対する面談と支援を継続する。また、経済的な支援対策についても学内外の支援制度の情報を入手し周知に努める。

改善状況を示す根拠資料

資料 B4. 3-1 面談記録書

資料 B4. 1-5 千葉県医師修学資金貸付制度（千葉県 HP）

<https://www.pref.chiba.lg.jp/iryou/ishi/ishikakuho/gakusei/kashitsuke.html#kakukosunogaiyou>

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・学生支援部会にて学修進度に基づいてカウンセリングが行われている。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・2017年度より、全学生をフォローするメンター制度を導入し、教員1名がメンターとして、各学年の学生を1名ずつ担当している。
- ・メンター制度の活用を促すための啓発用ポスターを作成・掲示した。

【今後の計画】

- ・メンター制度についての学生向けアンケート、教員向けアンケートの結果に基づき、随時メンター制度ガイドラインを改訂する。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q4.3-1 メンター制度ガイドライン

資料 Q4.3-2 メンター制度啓発ポスター

4.4 学生の参加

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための助言

- ・使命の策定、および教育プログラムを策定・管理・評価する委員会へ学生が実質的に参加し、適切に議論に加わるべきである。
- ・学生に関する諸事項を審議する委員会に学生が参加すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・医学教育リトリートに学生の代表者が参加し、教育プログラムに関する課題について審議に参加している。また、基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会に学生の代表者が構成員として参加している。

【今後の計画】

- ・2023年8月の医学教育リトリートにも学生の代表者が参加し、教育プログラムに関する審議に関与する予定である。
- ・基礎／普遍カリキュラム部会や臨床カリキュラム部会の構成員として学生が委員会活動において付与すべき議決権について決定し、規程の整備を行ったのちに、議決も含めて活動に参画することを検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料B4.4-1 令和4年度基礎／普遍カリキュラム部会委員名簿

資料B4.4-2 令和4年度臨床カリキュラム部会委員名簿

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・ボランティア活動支援センター等を通じて、学生のボランティアへの奨励がなされている。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・学生の基礎研究能力の育成のため、スカラシッププログラムで学生が行う基礎研究活動を奨励し、東日本研究医養成コンソーシアム、「第16回ちばBasic & Clinical Research Conference (BCRC)」、国内外の学会における発表を行っている。
- ・亥鼻キャンパスの医療系3学部の学生により、大学祭「亥鼻祭」が開催され、学術系企画、受験・留学相談、家族向け医療情報提供を行い、地域との交流を進めている。
- ・大学祭「亥鼻祭」では、地域医療教育学教員と地域卒学生が中心となり、地域医療に着目したイベント「やってみよう!地域医療体験」を行った。

【今後の計画】

- ・地域卒の学生が入学してきており、地域医療学等の学修を通じて、地域医療に貢献する活動についても奨励、支援していく。

改善状況を示す根拠資料

資料Q4.4-1 2021年度東日本研究医養成コンソーシアム

資料Q4.4-2 2022年度東日本研究医養成コンソーシアム

資料Q4.4-3 第16回ちばBasic & Clinical Research Conference

資料 Q4. 4-4 2022 年度亥鼻祭企画提案書（※部外秘）

資料 Q4. 4-5 亥鼻祭「やってみよう!地域医療体験」

5. 教員

領域 5.1 の改善のための助言にもとづいて、教員における女性および外国人の増加を推進することが今後の課題である。また、領域 5.2 の改善のための助言にもとづいて、個々の教員のカリキュラム全体の理解を促進するため、ホームページ閲覧や医学教育リトリート参加による周知を行う予定である。

5.1 募集と選抜方針

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・「医学研究院グランドデザイン将来構想」に則り、教員の募集と選抜方針を策定している。

改善のための助言

- ・教員の募集と選抜方針では、女性教員の比率などの教員間バランスを考慮すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・「千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想 2022」に則り新教授選考時や再任審査の機会を活用し、女性活躍促進を含めた教員人事の活性化の検討を行っている。
- ・教員の選考方針は教員選考委員会が公正な判断の元、候補者を推薦し学長により任用される。その中で、女性を対象とした、千葉大学独自の特別昇任制度が設置されている。現時点（2023年3月31日現在）で大学院医学研究院の女性教員は全教員 172 名中 25 名（14.53%）（2021年：23 名）、外国人教員は全教員 172 名中 2 名（1.16%）である。
- ・附属病院では、医師キャリア支援センターを設置し、女性教員が出産・育児でキャリアを中断せず、継続できるような取り組みを行っている。

【今後の計画】

- ・新教授選考時や再任審査の機会を活用した教員人事の活性化の検討や、自己点検および評価のための Institutional Research(IR) 部門の整備や公的データベース等の有効活用を行う。
- ・女性を対象とした特別昇任制度の周知と普及を進める。また、文部科学省も推進

している講師以上の教員における女性及び外国人の増加を推進する。

- ・ 附属病院の医師キャリア支援センターにおいて、育児中の女性医師などを支援する医師枠の設置、千葉県医師キャリアサポートブックの作成、育児などの悩みに対応するメンター制度の設置を行い、女性医師のキャリア継続を積極的に支援していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 5-3 千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想 2022

資料 B5. 1-1 医学部人事情報一覧（2023年3月31日現在）（※部外秘）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・ 地域医療教育の充実のため、県や市町村からの財政支援により教員を確保している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・ 入学定員のうち、現在 20 名の地域枠学生を受け入れている。
- ・ 2022 年度より大学院医学研究院に千葉県寄附講座地域医療教育学講座を設置し、地域枠学生に対する教育を行う 8 名の教員を採用した。

【今後の計画】

- ・ 地域医療教育学講座では、今後も(1)地域医療に関心を持つ医学生（地域枠学生等）への支援、(2)現場における地域医療の実践と指導、(3)千葉県内における地域医療教育ネットワークの構築・強化、(4)地域医療の実践とに従事する医師の診療能力や指導能力の向上に関する教育の実践、(5)地域病院における再就業支援取組の強化を行っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 1-2 2022 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://portal.gs.chiba-u.jp/syllabus>

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・ 教員に対する業績は、各教員の教育、研究、診療、社会貢献、大学運営間のバランスを考慮し、適切に評価されている。

改善のための助言

- ・ 個々の教員がカリキュラム全体を十分に理解するよう図るべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・ 医学部におけるカリキュラムは医学部ホームページ上に掲載されており、全ての教員が必要に応じて閲覧できるようになっている。

【今後の計画】

- ・ 医学部教育の更なる改善のためには、新任教員のみならず全ての教員に対するファカルティ・ディベロップメント (FD) が必要であり、毎年1回の医学教育リトリート等で特定のテーマ等についてのFDを実施する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B5. 2-1 令和4年度部局FD成果報告書

資料 Q1. 2-2 2022年度医学教育リトリート実施要領

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・ アテンディングドクター制度により臨床実習で教員を確保していることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・ カリキュラムの内容に対する適切な教員数等に関しては、学部学務委員会や基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会で定期的にかリキュラム内容と担当教員の検証と見直しがされている。令和4年度は、数学系科目群（統合数学・生物統計・AI数理科学入門）、医系生物学、基礎化学の講義担当者会議を行い、内容の検討を行った。

【今後の計画】

- ・適正な人数で各カリキュラムを遂行するにあたっては、他の講座の教員との連携を深め、複数の部署に所属する教員が協働して教育を担当する体制を引き続き推進して行く。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 1-2 2022 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://portal.gs.chiba-u.jp/syllabus>

6. 教育資源

領域 6.2 の改善のための助言および領域 6.2 や 6.3 の改善のための示唆にもとづいて、臨床実習の資源（患者や指導医、カルテ記載端末など）や内容（プライマリ・ケアなど）を充実させることが今後の課題である。また、領域 6.6 の改善のための示唆にもとづいて、より多くの国内教育機関と学生や教員の交流を進めることも今後の課題である。

6.1 施設・設備

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・前回受審時に改善点として指摘された講義室、実習室などの老朽化や収容能力不足に対応して医学部治療学研究棟が建設中である。
- ・臨床トレーニング施設としてシミュレーション・ラボが充実している。

改善のための助言

- ・現状ではアクティブラーニングスペース、チュートリアル室などが不足しているため、医学部治療学研究棟の竣工により、施設・設備が整備されるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・2021年に完成した医学部を含む医学系総合研究棟（治療学研究棟）の3階にアクティブラーニングスペースを東西に1ユニットずつ設置した。また、3階北側に医学教育専用のチュートリアル等にも利用可能な多目的利用のグループ学習室を10室設置した。新しい医学部を含む医学系総合研究棟（治療学研究棟）にはこの他に、講義室、セミナー室、教育および研究用実習室、ICT施設、個人用ロッカー、自習室等も新たに増設した。バリアフリーにも対応している。

【今後の計画】

- ・新たに拡充された施設・設備について、学生と意見交換を行いながら有機的な運

用を行う。

改善状況を示す根拠資料

資料 B6. 1-1 千葉大学大学院医学研究院・医学部医学系総合研究棟（治療学研究棟）案内

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・新外来診療棟に教育目的のプリセプティングループを複数設置している。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・千葉大学大学院医学研究院附属クリニカル・スキルズ・センター（CCSC）は、全ての医療専門職の教職員や学生を対象に、卒前・卒後を通じて系統だったシミュレーション技能教育（診療・ケア）を実施している。
- ・2021年に完成した医学部を含む医学系総合研究棟（治療学研究棟）の1階に全国最大級のスペースを有する解剖実習室と、より臨床医学にフォーカスしたクリニカルアナトミーラボ（CAL）を新設し、学生・医師等に教育を提供している。

【今後の計画】

- ・CCSCやCALについて、学生と意見交換を行いながら有機的な運用を行う。

改善状況を示す根拠資料

資料 B6. 1-1 千葉大学大学院医学研究院・医学部医学系総合研究棟（治療学研究棟）案内（CALについて・p6）

資料 Q6. 1-2 千葉大学大学院医学研究院附属クリニカル・スキルズ・センターHP

<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/ccsc/>

6.2 臨床実習の資源

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・臨床実習施設として、多数の関連病院と良好な連携関係を築いている。

改善のための助言

- ・臨床実習施設の患者数と疾患分類を検討し、教育資源として検証すべきである。
- ・学外臨床実習施設の指導者に対して教育の質を保証する工夫を行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・千葉大学医学部附属病院における患者数と疾患分類についてのデータを更新している。また、2021年から4～5年次の診療参加型臨床実習である臨床実習Ⅰに参加する学生全員が、「千葉大学 Moodle」上に経験した疾患、診療科名、経験した症候・病態に関する経験ログを記入している。学生の経験ログについては、ローテート毎の一つ以上の症候・疾患リストを入力することを臨床実習Ⅰ各ローテートの修了認定に必須としている。経験ログの記載については、シラバスに手順を含め明記し学生に周知をしている。
- ・これまで実施している指導医講習会に加え、学外臨床実習施設の指導医を対象とした指導医講習会を実施し、教育の質の向上をはかった。
- ・2022年4月より、大学院医学研究院に千葉県寄附講座地域医療教育学講座を設置し、学外実習施設（5施設）の指導医を地域病院アテンディング（特任助教）として雇用した。

【今後の計画】

- ・経験ログより学生が経験した症例、症候・病態に関するデータをもとに、診療科毎にどのような経験ができているかを分析し、各診療科へのフィードバックを行う。
- ・地域病院アテンディングに対して、週に1回ファカルティ・ディベロップメント（FD）を行い、学外臨床実習施設の指導者に対する教育の質向上を実施していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 B6. 2-1 千葉大学医学部附属病院における「患者数と疾患分類」データ (DPC2021)

資料 B6. 2-2 2021 年度シラバス（臨床実習シラバス）

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/edu/undergraduate/syllabus/>

資料 Q2. 4-2 2022 年度シラバス（臨床実習シラバス）

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/edu/undergraduate/syllabus/>

クリニカル・クラークシップ（CC）のポートフォリオ（4-5 年次・p38、5-6 年次・p37）

資料 B6. 2-4 経験症候・疾患リスト

資料 B6. 2-5 2022 年度地域医療教育学・年間計画

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・臨床実習には在宅医療などのプライマリ・ケアの実習も含めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・糖尿病・代謝・内分泌内科ならびに総合診療科での臨床実習では、学外実習期間中に在宅医療や地域包括ケア病棟等のプライマリ・ケアを経験できる臨床実習を行なっている。

【今後の計画】

- ・臨床実習におけるプライマリ・ケア領域に関する実習（地域臨床実習など）を拡充させる。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q2. 4-2 2022 年度シラバス（臨床実習シラバス）

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/edu/undergraduate/syllabus/>

資料 Q6. 2-2 総合診療科スケジュール（南浜診療所）

資料 Q6. 2-3 総合診療科スケジュール（船橋二和病院）

6.3 情報通信技術

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・LMS (Learning Management System) として「千葉大学 Moodle」が機能している。
- ・全学に暗号化された無線 LAN システムが整備されており、医学部、看護学部、薬学部にも 60 を越えるアクセスポイントが配置されている。
- ・臨床実習において学生がモバイル端末を利用して、随時エビデンスを収集できるようにしている。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・LMS (Learning Management System) として「千葉大学 Moodle」や「Google

Classroom」が機能している。

- ・全学に暗号化された無線 LAN システムが整備されており、医学部、看護学部、薬学部にも 60 を越えるアクセスポイントが配置されている。
- ・臨床実習において学生がモバイル端末を利用して、随時エビデンスを収集できるようにしている。

【今後の計画】

- ・情報通信技術を倫理面にも配慮し有効に活用できているかに関する評価を行う。

改善状況を示す根拠資料

資料 B6. 3-1 「千葉大学 Moodle2022」HP

<https://moodle3.chiba-u.jp/moodle22/>

資料 Q2. 4-2 2022 年度シラバス（臨床実習シラバス）

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/edu/undergraduate/syllabus/>

資料 B6. 3-3 千葉大学学生ポータルHP

<https://portal.gs.chiba-u.jp/>

資料 B6. 3-4 「オンデマンド型のメディア授業の受講」メディア授業サイト（学生）HP

<https://sites.google.com/public.gs.chiba-u.jp/mediaclass-student/ondemand>

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・「普遍教育」において情報通信に関する技術、知識、倫理の教育が行われており、医学部全学生の必修科目になっている。

改善のための示唆

- ・学生がカルテを書くための病院情報システム端末について、十分な台数を確保することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・病院情報システム端末を 2021 年末に約 200 台増設し（計約 2,300 台）、学生がカルテを書くための環境は改善されている。
- ・千葉大学医学部附属病院の電子カルテシステムの更新に伴い、モバイル端末の導入について検討を進めている。

【今後の計画】

- ・適宜、システム端末の増設を検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q6. 3-1 2021 年度病院情報システム推進委員会議事要旨

資料 Q6. 3-2 2022 年度病院情報システム推進委員会議事要旨

6. 4 医学研究と学識

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・学生はスカラーシッププログラム（ベーシック、アプライド、アドバンスト）による6年一貫のプログラムで研究室に配属されている。各配属先では、基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学等に関する研究を経験する。分子生物学的・組織解剖学的・生理学的・情報解析学的アプローチから何らかの研究体験を組み込むよう配慮されている。このような研究室配属システムにより、医学研究と学識が融合される教育体制となっている。
- ・各学生は研究室に配属され、講義の入っていない時間帯を利用して、研究に参加している。研究成果については、学生が学内で主催する発表会「ちば Basic & Clinical Research Conference (BCRC)」、他大学と合同で開催する発表会、一般の学会で発表を行い、論文発表を行う学生もいる。優秀な発表をした学生には千葉医学会奨励賞が授与され、学長表彰を受ける学生もいる。さらに、学生は基礎医学ゼミ、イノベーション医学、トランスレーション先端治療学に全員が参加の上調査・発表を行い、スカラーシップ配属教室での深い思考のみならず、広い視野での研究意義を考察する機会を提供している。

【今後の計画】

- ・スカラーシッププログラムのさらなる改善のために、学生アンケートおよびヒアリングを行う。

改善状況を示す根拠資料

資料 B6. 4-1 スカラーシッププログラム（6年一貫研究医養成プログラム）（千葉大学医学部 HP） <https://www.m.chiba-u.ac.jp/edu/scholarship/>

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・ スカラーシップ・ベーシックにより、早い時期から研究に触れる機会が学生に与えられていることは評価できる。
- ・ 2015年度から、優秀な研究を行った学生とその指導教員への表彰制度を設け、それぞれのモチベーションを高めるようにしている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・ スカラーシップ・ベーシックにより、科学的理論や方法を理解するとともに、早い時期から研究に触れ、リサーチマインドを涵養する機会が学生に与えられている。
- ・ ちば Basic & Clinical Research Conference (BCRC)で優秀な発表をした学生に千葉医学会奨励賞を授与するなど、優秀な研究を行った学生とその指導教員への表彰制度を設け、それぞれのモチベーションを高めるようにしている。
- ・ 研究時間の確保について、講義・臨床実習のない1ターム(2ヶ月)を各自の研究活動に充てるアスパイア・プロジェクトを2020年度より導入している。

【今後の計画】

- ・ 今後、アスパイア・プロジェクトを学生が研究活動としてどの程度活用しているか評価を行う。

改善状況を示す根拠資料

資料 B6. 4-1 スカラーシッププログラム(6年一貫研究医養成プログラム)(千葉大学医学部HP) <https://www.m.chiba-u.ac.jp/edu/scholarship/>

資料 Q4. 4-3 第16回ちば Basic & Clinical Research Conference

6.5 教育専門家

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・ 医学教育研究室には医学教育のみならず教育学の専門家が在籍し、カリキュラムの開発、教育技法、および評価方法の開発に利用されていることは評価できる。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・本学においては医学教育研究室を中心に卒前教育に対するファカルティ・ディベロップメント（FD）として毎年医学教育リトリートを実施している。

【今後の計画】

- ・医学教育リトリート等で、学内外からの教育専門家による教育能力向上のためのセミナーを開催する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B3. 1-4 2021 年度医学教育研究室年次報告書

資料 B3. 1-5 2022 年度医学教育研究室年次報告書

資料 B6. 5-3 令和 3 年度部局 FD 成果報告書

資料 B5. 2-1 令和 4 年度部局 FD 成果報告書

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・学内の教育専門家が、日本医学教育学会、Association for Medical Education in Europe (AMEE) などの学術集會に積極的かつ継続的に参加し、発表・討議を行っている。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・医学教育研究室員や教育専任教員を中心に、日本医学教育学会、Association for Medical Education in Europe (AMEE) 等の国内・国際学術集會に至るまで積極的かつ継続的に参加し、発表・討議を行っている。
- ・教員や学生を対象とした医学教育セミナーを定期的で開催している。
- ・各診療科から選出されている大学病院アテンディング（教育専任教員）に対して、毎月ファカルティ・ディベロップメント（アテンディング FD）を実施し、教育能力の向上を支援している。
- ・地域病院を主たる所属としつつ千葉県寄附講座地域医療教育学講座に兼務する地

域病院アテンディングに対して、毎週ファカルティ・ディベロップメントを実施し、教育能力の向上を支援している。

- ・大学病院アテンディングと地域病院アテンディングを対象とするFDを1ヶ月に1回実施しており、アテンディングが教育専門家に定期的にアクセスできる場が確保されている。

【今後の計画】

- ・医学教育分野の最新の知見を教員に広く共有するためのFDを開催する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B3. 1-4 2021 年度医学教育研究室年次報告書

資料 B3. 1-5 2022 年度医学教育研究室年次報告書

6.6 教育の交流

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・イリノイ大学、トーマス・ジェファーソン大学、インジェ大学、天津中医薬大学などと交換留学を行っている。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・イリノイ大学（米国）、トーマス・ジェファーソン大学（米国）、仁済（インジェ）大学（韓国）、レスター大学（英国）、シャリテ医科大学（ドイツ）等と交流協定を交わし、交換留学を行っている。
- ・トロント大学呼吸器外科臨床見学プログラム、ユタ大学放射線科臨床見学プログラムなどの留学プログラムを設けている。また医学教育振興財団英国留学プログラムの応募支援、IFMSA（国際医学生連盟）の活動支援を行っている。
- ・医学教育研究室に国際交流部門を設け、留学プログラムの作成、学生の募集、渡航支援などを行っている。
- ・学生留学報告会を開催、また留学報告書を作成し、留学した学生の体験や感想を、教員、学生に周知している。
- ・海外の大学から千葉大学医学部・医学部附属病院への見学実習生や交換留学生を受け入れている。
- ・WHO 本部（スイス・ジュネーブ）での、国際保健における日本人オフィサーの

活躍を聞く、学生の訪問研修ツアーを開催している。

- ・ドイツ、シャリテ医科大学およびライプツィヒ大学と集中講義および日独シンポジウムを開催し、学生が参加している。
- ・フランス、コートダジュール大学医学部の学生との「環境保健」をテーマにした共催集中講義を開催し、学生が参加している。

【今後の計画】

- ・「千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”」を推進し、より多くの留学プログラムを開発する。
- ・留学に必要なレベルの語学力をより多くの学生に獲得させるための支援プログラムを充実させる。
- ・教員の交流をより活発にし、医学教育の質の向上を図るとともに共同研究を推進する。
- ・英語・日本語ができるバイリンガルのスタッフを雇用しさらに円滑に海外研修ができるようにする。

改善状況を示す根拠資料

資料 B6. 6-1 各留学先との交流協定

- ・イリノイ大学（米国）
- ・トーマス・ジェファーソン大学（米国）
- ・仁済（インジェ）大学（韓国）
- ・レスター大学（英国）
- ・シャリテ医科大学（ドイツ）

資料 B2. 6-1 「千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”」

資料 B6. 6-3 千葉医学雑誌 2023 年 2 月号

「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックが終わらない中でのジュネーブ・ベルリン国際研修を終えて」

「ジュネーブ国連・国際機関、シャリテ・ベルリン医科大学における研修報告ー新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行による中断後の再開」

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・全員留学を目標に「亥鼻地区 ENGINE 推進 WG」を設置し、教職員や学生の国内外の交流を促進すべく検討を行っている。

改善のため示唆

- ・国際的な交流に限らず、より多くの国内教育機関との間でも学生や教員の交流を

進めることが期待される。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・「亥鼻地区 ENGINE 推進 WG」を医学部・薬学部・看護学部（学士課程）、医学薬学府・看護学研究科（修士・博士課程）の留学担当教員を構成員として設置し、医学教育研究室長が主査を務めている。同 WG では留学を専門的に扱う特任助教を 2020 年より設置しているが、国外だけでなく国内においても教職員や学生の交流を促進すべく検討を行っている。
- ・研究医養成を目的とした四大学コンソーシアム（東京大学、千葉大学、群馬大学、山梨大学）を組織し、学生が運営の主体となったリトリートを毎年開催しており、令和 4 年度の主幹校を本学が務めた。現在は東日本研究医養成コンソーシアムと改称し東日本の国公立・私立大学十数大学が参画して学生の研究交流、教員の研究医養成カリキュラムの情報共有をはかっている。

【今後の計画】

- ・卒前教育・卒後教育において他の国内教育機関との間で、教員の派遣・受け入れをさらに積極的に行う。
- ・東日本研究医養成コンソーシアムを通じ、さらに多くの国内教育機関との間で研究する学生同士の交流、および研究医を養成する教育カリキュラムについての情報共有をはかる。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q4. 4-1 2021 年度東日本研究医養成コンソーシアム

資料 Q4. 4-2 2022 年度東日本研究医養成コンソーシアム

7. 教育プログラム評価

領域 7.1 および 7.2、7.3 の改善のための助言および示唆にもとづいて、6 年間全体のカリキュラムの教育課程と学修成果、卒業生の実績を定期的に評価するため、学生や教員からのフィードバックを充実させつつ、自己点検・評価委員会の活動を検証して充実させた。プログラム評価活動においては、領域 7.4 の改善のための助言および示唆にもとづいて、広い範囲の教育関係者からのフィードバックを求めていく予定である。

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための助言

- ・6年間全体のカリキュラムの教育課程と学修成果を定期的にモニタし、評価する組織を学部として早急に定め、規程を定めて活動を開始すべきである。
- ・学修成果の達成にかかるデータを、体系的にカリキュラムと主な構成要素、学生の進歩の視点で解析し、教育上の課題を特定すべきである。
- ・特定された課題をカリキュラムに確実に反映すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・医学教育研究室に教育評価部門（IR部門）を設置し、学生授業評価アンケート、卒業時アンケート、教員アンケート、wbt（web-based test）の試験結果を定期的・系統的に収集・分析している。そのデータは、学部学務委員会、基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会を介してカリキュラムに反映させている。また、医学教育研究室教育評価部門には千葉大学医学部附属病院総合医療教育研修センター調査・分析部門（IR部門）の教員も1名兼務しており、卒後教育との連携も図られている。
- ・令和4年度に公表した千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想2022において、「自己点検および評価のための Institutional Research（IR）部門の整備」が盛り込まれた。
- ・カリキュラムへ反映した例として、2020年度以降、普遍教育、基礎医学カリキュラムの大幅変更（生物統計やAI数理科学の開講）、統合型カリキュラムの拡充（統合臨床薬理学、統合臨床微生物学の導入）を行った。本件について、令和4年度第9回および第10回基礎／普遍カリキュラム部会で「2020年度からの基礎／普遍カリキュラム改革ふりかえりとその後」という議題で審議を行い、会議に出席している他学部教員から意見もいただきながら、評価や総括を行った。
- ・授業評価アンケートの質問項目は各学部で異なっていたが、全学の方針で共通質問を導入することが原則となった。これに対して、医学部は現行システムによる授業評価アンケートが定着して高い回収率を誇っていることから、全学の共通質問を導入しつつも、調査実施は従来通り医学教育研究室が行い、集計の一部を外部委託化することとなった。これにより各教員へのフィードバックが迅速となり、各科目別集計表も授業改善のための課題発見に役立てやすい構成となるなど、それぞれの良い点を両立させることができた。
- ・「普遍教育・生命コア科目の担当についてのアンケート」を行い、第4回基礎／普遍カリキュラム部会で集計結果が報告され、令和5年度以降の医学部が提供する普遍教育科目の在り方を検討した。

- ・臨床カリキュラム部会において、臨床実習を見直されることとなり、過去に行われた卒業時調査や授業評価アンケートの集計結果をもとに医学教育研究室で議論が進められた。こうした議論をもとに、臨床カリキュラム部会で臨床実習の見直しが検討されている。
- ・臨床実習を除く専門教育科目（講義科目）の授業評価アンケートは、全学で共通の質問項目と医学部独自の質問項目に分かれており、医学教育研究室で実施している。収集した授業評価アンケートのデータは国際未来教育基幹高等教育センターへ情報提供することとなった。逆に高等教育センターからは「全学共通質問」の学部や学科等平均の算出・比較データの提供を受ける。
- ・第7回および第11回臨床カリキュラム部会において、臨床実習の授業評価アンケートについて、審議した。質問項目や科目別集計表を改善することで、より実習の様子を把握できるように改善された。

【今後の計画】

- ・医学教育の改善状況を客観的に把握するために、学部学務委員会などの学務系の委員会組織だけでなく、自己点検・評価委員会による IR 解析データならびに学内の客観的データの確認、討議と自己点検を継続する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B7. 1-1 医学教育研究室 HP（教育評価・IR）

<https://www.m.chiba-u.jp/class/mededu/evaluation/index.html>

資料 B7. 1-2 千葉大学医学部附属病院総合医療教育研修センターHP

<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/chibauniv-resident/>

資料 B2. 1-1 医学部 医学科カリキュラム・ツリー

資料 B7. 1-4 千葉大学大学院医学研究院・医学部委員会規程

資料 B7. 1-5 2022 年度の授業評価アンケート 質問項目の統一に向けた共通質問の導入について

資料 B3. 1-6 2020 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 B3. 1-7 2021 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 B2. 5-3 千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想 2022

資料 B3. 1-8 2022 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 B2. 7-3 2022 年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 B7. 1-11 医学教育研究室教職員ミーティング（2023 年 1 月 13 日開催）議事録

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・6年間全体のカリキュラムの教育課程と学修成果を定期的にモニタし、評価する組織を学部として確立し、教育活動とそれが置かれた状況、カリキュラムの特定の構成要素、長期間で獲得される学修成果と社会的責任について包括的に評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・医学教育研究室では、卒業時にアンケート調査を実施しており、学生の6年間の学修成果として、学修アウトカムの到達度に関する情報を収集している。2022年度は「千葉大学医学部卒業時に達成するコンピテンシー（案）に関する調査」や本学部卒業生への聞き取り調査、さらには一般に向けてパブリックコメントを実施した。
- ・千葉大学医学部学生の卒業時まで達成すべき学修成果（アウトカム）の見直しを行った。その過程で、本学卒業生からの意見収集などを通して、医学教育研究室で従来の学修成果の不足内容を補う検討を行った。
- ・令和4年度第6回学部学務委員会において、「一般枠学生と地域枠学生の成績等の比較について」を審議し、カリキュラムの定着について確認した。

【今後の計画】

- ・自己点検・評価委員会では今後、6年間全体のカリキュラムの教育課程と学修成果を定期的にモニター、評価し、カリキュラムの改善を提案することを計画している。
- ・社会的責任として、2020年度から地域枠入試を導入し地域枠学生に対して「地域医療学」、また、入学後に募集する研究医枠学生に対して「スカラーシップ・アドバンスト」および「イノベティブ先端治療学・アドバンスト」を開講しており、この評価として、卒業後のキャリアに関する調査解析を計画している。
- ・卒業時学修アウトカムの達成に向けたマイルストーン（段階的評価）を確立し、臨床実習開始時などの各学修段階における到達度の評価、モニタリングを計画している。
- ・令和5年度より「千葉県地域枠入試のあり方検討ワーキンググループ」が医学部執行部会の下に設置されることが見込まれており、令和7年度入試以後の地域枠入試のあり方（定員数等）について検討することが構想されている。これと関連して、教育カリキュラムの定着度について、引き続き分析することが予定されている。

改善状況を示す根拠資料

資料 B3. 1-7 2021 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 B3. 1-8 2022 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨
資料 B3. 1-10 2021 年度臨床カリキュラム部会議事要旨
資料 B2. 7-3 2022 年度臨床カリキュラム部会議事要旨
資料 Q7. 1-5 2021 年度千葉大学医学部卒業時学生調査 集計結果抜粋
資料 Q2. 2-2 2022 年度千葉大学医学部卒業時学生調査 集計結果抜粋
資料 B1. 4-7 学修成果の 2022 年度改訂案-パブリックコメント募集要項
資料 Q7. 1-8 アウトカムインタビュー記録

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための助言

- ・「普遍教育」を含めた 6 年間のプログラム評価に対する学生や教員からのフィードバックを系統的に収集し、分析・対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・ 普遍教育科目は国際未来教育基幹高等教育センターが授業評価アンケートを実施している。アンケートの結果、授業満足度をはじめ各項目において、千葉大学での開講他部局と比較し良好な結果を得ている。当該結果について、令和 5 年度の自己点検・評価委員会、基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会での報告を予定した。
- ・ 「普遍教育」に関しては、月 1 回の普遍教育運営部会への担当教員（基礎／普遍カリキュラム部会長）の出席、年 1 回の普遍教育担当部署と医学部長を含む学務関連教員との意見交換会を行っている。改善点があれば学内の基礎／普遍カリキュラム部会で対応する。
- ・ 令和 4 年度学生と部局長との懇談会を開催して、医学部長と医学部生が意見交換を行った。2022 年度は本部が設定した「学部の垣根を越えて学ぶことができるプログラム」というテーマで対話をしている。医学部 1～6 年生までがそれぞれプレゼンテーションを行い、医薬看 3 学部の学生が合同で行う「チーム医療（亥鼻 IPE）」の授業や全学部生が対象の普遍教育科目などについて、意見・要望を表明して、教育ニーズを把握した。
- ・ 令和 3 年度学生と部局長との懇談会で報告されたアンケート結果などに基づき、臨床実習におけるメイン・サブ方式の抽選方法を令和 4 年度第 1 回および第 2 回

臨床カリキュラム部会において、同部会の学生委員とともに見直した。また、令和4年度から開始した臨床実習の見直しでも、令和3年度学生と部局長との懇談会の資料が活用された。

- ・令和4年度に公表した千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想2022において、学修成果の分析を踏まえた学部授業の質の向上に関する方針を定めた。

【今後の計画】

- ・普遍教育科目の授業評価アンケートについて、全学の集計方法が令和5年度から見直される見込みである。引き続き、授業評価アンケートの結果を入手・分析できるようにする方向で準備を進める。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 5-3 千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想 2022

資料 B7. 2-2 令和3年度普遍教育に関する学部訪問

資料 B7. 2-3 令和4年度普遍教育に関する学部訪問

資料 B7. 2-4 全学教育センター普遍教育運営部会議事要旨

資料 B7. 2-5 令和4年度授業評価アンケート集計結果

資料 B7. 2-6 令和3年度学生と部局長との懇談会当日配付資料

資料 B7. 2-7 令和3年度学生と部局長との懇談会実施報告書・Web掲載資料

資料 B7. 2-8 令和4年度学生と部局長との懇談会当日配付資料

資料 B2. 7-4 部局長と学生との懇談会について（実施報告）

資料 B7. 2-10 学部・大学院教育委員会（令和4年12月20日開催）議事要旨

資料 B7. 2-11 学部・大学院教育委員会（令和4年12月20日開催）報告資料 2-1

資料 B2. 7-3 2022年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 B7. 2-13 千葉大学における教育 IR の基本的考え方

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・学生や教員からのフィードバックを充実させ、教育プログラム開発につなげることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・学生や教員からのフィードバックが教育プログラムに反映された例として、2020年度以降、普遍教育、基礎医学のカリキュラム変更（生物統計やAI 数理科学入門の開講）、統合型カリキュラムの拡充を行った。B7.1でも述べたように、本件について、令和4年度第9回および第10回基礎／普遍カリキュラム部会で「2020年度からの基礎／普遍カリキュラム改革ふりかえりとその後」という議題で審議を行い、会議に出席している他学部教員から意見もいただきながら、評価や総括を行った。
- ・2022年8月に実施した医学教育リトリートでは、学生による不正および不適切な行為について、テーマの一つとして取り上げ、教職員での意識の統一を図った。さらに、令和4年度第11回学部学務委員会の承認により、医学教育リトリートのポストアンケートを実施して、ワークショップを通じて不正や不適切行為に対する意識がどのように変化したのかを調査した。

【今後の計画】

- ・医学教育研究室教育評価部門が収集・分析したデータを総合的に評価する組織を明確にし、引き続き自己点検・評価委員会や学部学務委員会を介し教育プログラム開発につなげることを目指す。
- ・医学教育リトリートに関するポストアンケートなどを分析して、学生の不正や不適切行為が隠されたカリキュラムによって引き起こされる様相を明らかとし、その結果を報告することを目標とする。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 1-1 医学部 医学科カリキュラム・ツリー

資料 Q2. 6-2 2022年度医学教育リトリート報告書

資料 Q7. 2-3 令和4年度度学部学務委員会議事要旨

資料 B3. 1-6 2020年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 B3. 1-7 2021年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 B3. 1-8 2022年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための助言

- ・使命と学修成果の達成やカリキュラムを包括的に評価するため、学生と卒業生の実績を系統的に収集・分析すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・2022年6月に、医学部における学修成果の達成やカリキュラムの影響を評価するため、本学を卒業した臨床研修医（千葉大学医学部附属病院臨床研修医、千葉大学医学部附属病院以外の臨床研修医）に対し、インタビューを行った。インタビュー結果を質的に解析するとともに、卒業時の学修アウトカムに反映した。
- ・医学教育リトリートにおいて、医学教育研究室教育評価部門（IR部門）の解析結果について毎年報告し、医学部教員の代表による議論を行っている。2022年度は医学教育リトリートにおいてワークショップ「千葉大学の教育プログラム評価とIR」を行い、①教育プログラムのモニタと評価、②教員と学生からのフィードバック、③学生と卒業生の実績について意見交換を行った。
- ・卒業後のキャリアとして、卒業時において、卒後臨床研修病院をどのように選択したか、将来的に学位取得や千葉大学医学部附属病院への入局を考えているか、などについて調査しており、千葉大学医学部附属病院医師臨床研修管理委員会に報告されている。

【今後の計画】

- ・医学教育研究室において、卒業後のキャリア（専門医取得、学位取得など）に関するIRデータの収集方法を検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q1. 2-2 2022年度医学教育リトリート実施要領

資料 B7. 3-2 2022年度卒後臨床研修に関する調査（学部卒業見込者対象）報告書

資料 B7. 3-3 令和4年度第4回医師臨床研修管理委員会議事要旨

質的向上のための水準

医学教育分野別評価基準日本版の改訂があり、Ver. 2.35の内容は以下のとおりである。

医学部は、以下の項目に関連して、学生と卒業生の実績を分析するべきである。

- 背景と状況（Q 7.3.1）
- 入学資格（Q 7.3.2）

学生の実績の分析を使用し、以下の項目について責任がある委員会へフィードバックを提供すべきである。

- 学生の選抜（Q 7.3.3）
- カリキュラム立案（Q 7.3.4）

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・様々な視点から学生と卒業生の実績を系統的に収集・分析し、その結果を責任ある委員会へフィードバックすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・医学教育研究室において毎年学生向けに授業評価アンケートを実施し、各講義担当者へフィードバックしている。また、授業評価アンケートの集計結果については基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会において毎年、報告されている。
- ・アカデミック・リンク・センターが全学で、入学時に新入生の背景や状況を把握するためにアンケート調査を実施している。本調査では医学教育研究室からの提案により、医学部独自の質問項目も設定されており、高校時代に「生物」が得意であったかや家庭の経済状況、家族に医療専門職はいるかなどを幅広く尋ねている。集計結果は全学の教員に共有されており、医学部教員だけでなく、普遍教育科目を担当する教員も閲覧できるようになっている。
- ・学生カウンセリングについて、成績不振学生等については面談を実施しており、その結果は学務・学生支援部会において報告されている。
- ・千葉大学医学部附属病院を基幹施設とする研修プログラムで卒後臨床研修を修了する研修医に対して、卒業した大学の医学教育が研修で役立ったかを調査している。本調査では千葉大学卒業生と他大学卒業生を比較しており、その理由を含めて千葉大学医学部附属病院総合医療教育研修センターで分析を行っている。
- ・千葉大学医学部では、前期・後期入学試験を実施してきているが、2021年度に後期入学学生の成績や、卒後の進路について調査したが、成績は後期入学学生のほうが前期より優れている傾向はあったものの、進級等に目立った差はなく、今後も後期入試を実施し、さらに医師としてのキャリアアップが期待できる学生の選抜方法について検討を続けることとなっている。
- ・2022年6月に、医学部における学修成果の達成やカリキュラムの影響を評価するため、本学を卒業した臨床研修医（千葉大学医学部附属病院臨床研修医、千葉大学医学部附属病院以外の臨床研修医）に対し、インタビューを行った。インタビュー結果を質的に解析するとともに、卒業時の学修アウトカムに反映した。

【今後の計画】

- ・学生の入学資格に関連する事項の調査として、特に地域卒学生の学修成果（アウ

トカム)を評価し、関連する委員会等(自己点検・評価委員会、学部学務委員会)にフィードバックすることを計画している。

- ・アカデミック・リンク・センターからの入学時アンケート調査の解析結果を学生の学修成果(アウトカム)のモニタリング及び達成に活用する方針である。

改善状況を示す根拠資料

資料 B3. 1-7 2021 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 B3. 1-8 2022 年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 B3. 1-10 2021 年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 B2. 7-3 2022 年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 B3. 2-13 2021 年度医学教育リトリート報告書

資料 Q2. 6-2 2022 年度医学教育リトリート報告書

資料 Q7. 3-7 2021 年度千葉大学入学時アンケート調査集計結果

資料 Q7. 3-8 2022 年度千葉大学入学時アンケート調査集計結果

資料 Q7. 3-9 令和 3 年度第 5 回学務・学生支援部会議事次第・議事要旨

資料 Q7. 3-10 令和 4 年度第 6 回学務・学生支援部会議事次第・議事要旨

資料 Q7. 3-11 2021 年度卒後臨床研修に関する調査(研修修了者対象)報告書

資料 Q7. 3-12 2022 年度卒後臨床研修に関する調査(研修修了者対象)報告書

資料 Q7. 3-13 令和 3 年度学部学務委員会議事要旨

資料 Q7. 2-3 令和 4 年度学部学務委員会議事要旨

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための助言

- ・責任と権限を持って教育プログラムを評価する組織に、学生と職員をはじめとしたより多くの教育に関わる主要な構成者を含むべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会には、教員と学生の代表者が構成員として参加しており、多角的な視点から医学教育のカリキュラムについて検討を行っている。基礎／普遍カリキュラム部会には他学部の教員も構成員として参加している。ただし、現状として、学生の代表者は成績評価や不正行為な

どに関する議題の際には会議を途中退席させるほか、あらかじめ上程される予定の議題が成績評価の判定のみに限られる場合には、最初から参加を求めないこともある。

- ・2022年度は学生の代表者が所属学年の学生に対してアンケートを実施するなど、教育活動の改善へ積極的に取り組んでおり、その分析結果を踏まえながら検討が進められた。

【今後の計画】

- ・今後もさらに薬学部、看護学部など亥鼻キャンパスの医療系学部の教員に参加を要請し、カリキュラム評価体制の整備を継続していく。
- ・基礎／普遍カリキュラム部会や臨床カリキュラム部会の構成員として、学生に付与すべき議決権について決定し、規程の整備を行ったのちに、議決も含めて活動に参画することを検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B4. 4-1 令和4年度基礎／普遍カリキュラム部会委員名簿

資料 B4. 4-2 令和4年度臨床カリキュラム部会委員名簿

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・教育プログラムの評価結果を患者代表や地域医療の代表者など、より広い範囲の教育関係者に周知し、卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・千葉大学では医学部附属病院に総合医療教育研修センター、患者支援部を設置し、また千葉県地域連携の会の開催を通じ、医療、介護、福祉、行政等の関係者と、地域の抱える課題や必要な対策を議論し、より望ましい医療提供体制の構築のため、教育プログラムを展開することを目指している。
- ・千葉大学医学部学生の卒業時まで達成すべき学修成果（アウトカム）の見直しを行う過程で、「亥鼻地区3学部と附属病院の教育・研修に係る連絡会議」を含め広い範囲の教育関係者を対象としてホームページ上でパブリックコメントを募集した。

【今後の計画】

- ・教育プログラムの評価結果についても、住民代表も含めた千葉県の地域医療に関する広い範囲の関係者に周知し、卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを求めることを検討する。
- ・大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」において外部評価委員会を設置し、同委員会に地域医療機関の代表者を含める予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q7. 4-1 千葉大学医学部附属病院総合医療教育研修センター名簿 (HP)

<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/chibauniv-resident/about/attending.html>

資料 Q7. 4-2 第 16 回千葉県地域連携の会開催要項

資料 Q7. 2-3 令和 4 年度学部学務委員会議事要旨

資料 Q7. 4-4 学修成果 (アウトカム) 改訂の手順

8. 統轄および管理運営

領域 8.1 の改善のための助言および示唆にもとづいて、教育活動に関する委員会である学部学務委員会および自己点検・評価委員会についての規程を個別に作成して役割と権限を明文化し、主な教育の関係者やその他の教育の関係者の意見を反映しつつ委員会活動を行っていくことが今後の課題である。

8.1 統轄

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・学長のガバナンスが強化され、強いリーダーシップが発揮されることにより、インフラの新設や整備が迅速に進められていることは評価できる。

改善のための助言

- ・医学部における教育活動に関する委員会を整備し、その役割と権限を明文化すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・医学部には常置委員会として学部学務委員会が設置されており、医学部のカリキュラム関連部会（基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会）と学務・学生支援部会の 3 部会を統括している。

- ・学部学務委員会及び自己点検・評価委員会それぞれの規程作成に向けて協議した。

【今後の計画】

- ・上記、改善状況に示した学部学務委員会及び自己点検・評価委員会それぞれの規程を作成し、前者には医学部教育活動に関する総括を行うことを、後者には医学部教育活動の評価や医学部のカリキュラム等の自己点検についても明記する。
- ・教育活動に必要な課題を明確化し、それぞれの課題に対する改善活動を所掌委員会との協力の下に行い、PDCA サイクルを回すことで継続的に進める。

改善状況を示す根拠資料

資料 B7. 1-4 千葉大学大学院医学研究院・医学部委員会規程

資料 B1. 2-1 医学研究院・医学部常置委員会委員一覧（2022年7月1日現在）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・医学部における教育活動に関する委員会組織を設置し、主な教育の関係者、その他の教育の関係者の意見を反映させることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・学部学務委員会が医学部のカリキュラム関連部会（基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会）と学務・学生支援部会の3部会を統括し、それぞれの意見を反映しやすくなっている。
- ・基礎／普遍カリキュラム部会には広い範囲の教育の関係者として他の部局の教員（普遍教育担当）が構成員として参加している。
- ・基礎／普遍カリキュラム部会、臨床カリキュラム部会には、研究院長が必要と認める者として、学生の代表者が構成員として参加している。
- ・医学部ホームページの運用およびセキュリティ向上を目的に、CMS である concrete5 の導入を行い、総務第一係、医学部学務係によるホームページの随時更新が可能となり、教授会等の議事録を随時公開するなど、より透明性が確保されている。

【今後の計画】

- ・医学部における教育活動に関する委員会組織に、その他の教育の関係者の参加を検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B1. 2-1 医学研究院・医学部常置委員会委員一覧（2022年7月1日現在）

資料 B7. 1-4 千葉大学大学院医学研究院・医学部委員会規程

資料 B3. 1-7 2021年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 B3. 1-8 2022年度基礎／普遍カリキュラム部会議事要旨

資料 B3. 1-10 2021年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 B2. 7-3 2022年度臨床カリキュラム部会議事要旨

資料 Q7. 3-13 令和3年度学部学務委員会議事要旨

資料 Q7. 2-3 令和4年度学部学務委員会議事要旨

資料 Q8. 1-9 公開情報（千葉大学医学部 HP）

<https://www.m.chiba-u.ac.jp/about/disclosure/>

資料 Q8. 1-10 令和3年度医学研究院教授会・医学部教授会議事概要（臨時教授会を含む）

資料 Q8. 1-11 令和4年度医学研究院教授会・医学部教授会議事概要（臨時教授会を含む）

8.2 教学における執行部

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・2012年に作成されたグランドデザイン将来構想を実現すべく組織の改変や整備が行われていることは評価できる。
- ・学長の強いリーダーシップの結果、全員留学を目指した「千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”」プログラム、革新医療創生 CHIBA 卓越大学院、未来医療教育研究機構の創設などの新しい取り組みがなされていることは評価できる。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・2022年に改訂したグランドデザイン将来構想2022に基づき、大学院医学研究院の教育体制の再構築として、機動的な執行部体制の確立を目指すことを提言した。

【今後の計画】

- ・グランドデザイン将来構想2022に基づき、執行部は運営に必要な課題を担当任務・

所掌内容、責任範囲を明確化することで、日常的業務を適正かつ効率よく運営できる執行部体制を構築する。

- ・必要に応じて、学外有識者の助言を受けることのできる体制を確立することで、職務の効率化と継続性を考慮しつつ、多角的視点を確保した大学院運営を目指す。

改善状況を示す根拠資料

資料 B2. 5-3 千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想 2022

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・職位別に重み付けによる評価である教員業績評価制度を導入することにより、毎年職務内容と成果の評価が行われ、各自改善を行っている。(資料 B8. 2-1)
- ・定期的な医学教育リトリートによって、医学部の使命と学修成果（アウトカム）についての自己評価が行われ、教育成果が明確化してきている。(資料 Q2. 6-2)

【今後の計画】

- ・医学部の使命と学修成果（アウトカム）についての自己評価を定期的に行う。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q8. 2-1 教員業績評価制度に関する規程資料

- ・国立大学法人千葉大学教員業績評価規程
- ・国立大学法人千葉大学教員業績評価実施要項
- ・教員業績評価制度の概要
- ・評価分野・評価項目・評価項目の詳細・評価基準（教授、准教授・講師、助教）

資料 B3. 2-13 2021 年度医学教育リトリート報告書

資料 Q2. 6-2 2022 年度医学教育リトリート報告書

8. 3 教育予算と資源配分

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・教育関係予算は、学部長、副研究院長、副学部長より構成される執行部が検討し、教授会が承認している。

改善のための助言

- ・教育関係予算の計上と分配についてのプロセスを明確にすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・医学教育研究室室長（医学教育学教授）を副医学部長とし、執行部の構成員としたことにより、カリキュラムを遂行するための教育関係予算や必要な資源の配分がしやすくなり、また、今後の教育ニーズに迅速かつ戦略的に対応できる体制となっている。（資料 B8. 3-1）
- ・現在の必修 43 科目中、科目担当教員は教授 50 名、准教授 35 名で教授・准教授の配置率は 86.0%であり、非常勤講師は 0 名である。（資料 B2. 1-2、資料 B8. 3-3）
- ・教育関係予算分配のプロセスを教授会に報告し承認を得ている。

【今後の計画】

- ・カリキュラムの遂行に必要な資源を計上し、教育上の要請に沿って教育資源を適切に分配するよう努め、所掌組織と自己点検・評価委員会で PDCA サイクルを回すことで継続する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B8. 3-1 医学研究院執行部関係会議一覧

資料 B2. 1-2 2022 年度シラバス（電子シラバス参照）

<https://syllabus.gs.chiba-u.jp/>

資料 B8. 3-3 大学院医学研究院・医学部附属病院教員配置表（※部外秘）

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・医学教育研究室室長（医学教育学教授）を副医学部長とし、執行部の構成員とした

ことにより、医学の発展と社会の健康上の要請に基づいた資源配分や教育資源配分の適切な自己決定について審議、履行しやすくなっている。(資料 B8.3-1)

- ・医学教育研究室による教育サポートを充実するために必要な資源配分の配慮を行う体制を構築した。

【今後の計画】

- ・医学教育学ならびに医学教育研究室を拡充するために、資源配分を行う。
- ・引き続き、今後も変革していく医学の発展と社会のニーズに迅速に対応していくための仕組みを検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 B8.3-1 医学研究院執行部関係会議一覧

8.4 事務と運営

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・千葉大学の事務部の中に、亥鼻地区の医療系学部やセンターを統括する事務部が整備され、カリキュラム編成や入試、学生支援などが確実に実行されている。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・2019年7月より事務部は再編成を行い、亥鼻地区4部局を各課が統括して管理・運営する体制となった。医学部は抽出される様々な課題を解決するために委員会を細分化・専門化したことによって、医学教育全体の課題や複数の領域にまたがる課題を相互に意識するようになり、計画的かつ継続的に強化を図っていけるようになっている。
- ・教育プログラムと関連活動を支援するために、学部教育・学生支援に係る管理・運営組織及びその支援事務組織が形成され、副課長2名(学部学務担当1名、大学院学務担当1名)、医学部学務係(係長以下8名)、学生支援係(係長以下3名)、大学院学務係(係長以下7名)が適切な役割分担の下で組織的な連携体制が確保され、確実に実行されている。医学部は、学部の目的である「人類の健康と福祉に貢献するとともに次世代を担う有能な医療人・研究者を育成する」を達成するため、教育プログラムと関連活動を支援するための組織と人員は適切に配置されている。

【今後の計画】

- ・亥鼻地区の医療系学部やセンターを統括する事務部によって、カリキュラム編成や入試、学生支援などが確実に実行されていることを定期的に検証していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 B8. 4-1 千葉大学事務組織図

資料 B8. 4-2 亥鼻地区事務部業務分担表

資料 B8. 4-3 亥鼻地区事務部座席表

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・千葉大学では事務職員についても評価制度が確立している。また、職員研修制度の整備や中期目標・中期計画に係る点検・評価の実施など、医学部では管理・運営の質保証のための制度が整備・履行されている。
- ・事務職員には、国立大学法人千葉大学事務職員等人事評価実施規程及び国立大学法人千葉大学事務職員等人事評価実施要項に基づく人事評価制度が定められている。さらに、課長級職員、副課長及び専門員（副課長級職員）については、部下職員による上司の指導等に関する評価も実施されている。本学においては、管理・運営能力の質向上に役立つ職員研修制度（階層別研修、能力開発研修、その他研修）が多数整備されている。
- ・令和4年度から国立大学法人は第4期中期目標・中期計画の期間となり、本学の中期目標・中期計画中にも教育の質の保証や業務の効率化・合理化は重要課題となっており、医学部はもちろん、大学全体での点検・評価が実施されている。
- ・また、本学では大学に監事及び監査室を配置し、管理運営の質保証のための定期的な監査プログラム（2種類）が実施されている。1種は業務活動が法令ならびに本学の方針、計画、制度及び諸規程に基づいて適正かつ効率的に行われているかについて行う業務監査であり、もう1種は本学の取引における会計処理に関する会計監査である。

【今後の計画】

- ・将来的な改善については、「千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想 2022（2022年7月1日）」に基づく、教育研究組織と支援組織の抜本的な機構改革に沿った管理運営の質保証のための制度の作成を進める。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q8.4-1 国立大学法人千葉大学事務職員等人事評価実施規程

資料 Q8.4-2 国立大学法人千葉大学事務職員等人事評価実施要項

資料 Q8.4-3 令和4年度千葉大学職員研修等実施計画

資料 Q8.4-4 第4期中期目標・中期計画

資料 Q8.4-5 第4期中期目標・中期計画・年度計画一覧表

資料 B2.5-3 千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想 2022

資料 Q8.4-7 次世代対応型医療人育成と「治療学」拠点創成のための亥鼻キャンパス高機能化構想

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・東千葉メディカルセンターへの医師派遣や地域枠入学など、地域医療に貢献していることは評価できる。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・千葉大学医学部附属病院長は国立大学病院長会議長及び全国医学部長病院長会議長として文部科学省とともに国立大学のあるべき姿を模索しリードしている。
- ・2022年度より大学院医学研究院に千葉県寄附講座地域医療教育学講座を設置し、地域医療機関に勤務する医師を特任助教として5名採用するとともに、同講座の活動において千葉県健康福祉部医療整備課と連携している。
- ・千葉大学医学部附属病院に寄附講座次世代医療構想センターを設置し、千葉県で起きている医師の地域偏在・診療科偏在などの問題に取り組んでいる。また、次世代医療構想センターを設置することによって、大学病院、地域の医療機関、千葉県の3者が中心となった、2025年以降の地域医療ニーズを見据えた安定した地域の医療提供体制の確立を目指せる体制が構築できた。
- ・千葉県の高齢化率は27.1%と全国40位（令和2年度）である。しかし平成27年

から令和2年にかけての高齢者人口増は約11.5万人と急速に増加中である。これに伴う医療需要の急増に対応するために千葉県をリードする形で医療改革に向けた提言を行っている。

- ・大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に採択され、千葉県及び千葉県内の医療機関、東邦大学医学部と連携している。

【今後の計画】

- ・大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の推進において、千葉県および千葉県内の医療機関、東邦大学医学部との連携を継続する。

改善状況を示す根拠資料

資料 B8.5-1 千葉大学医学部附属病院次世代医療構想センターHP

<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/NextGeneration/about/about/>

資料 B8.5-2 千葉県寄附講座「地域医療教育学講座」設置に関する資料（寄附講座等設置申込書）

資料 B8.5-3 千葉県寄附講座「地域医療教育学講座」の概要

資料 B8.5-4 大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に関する資料

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・超高齢社会研究センターや予防医学センターなどを通じて、市町村や医師会との協働を構築している。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・21世紀を担う医療者を育成するために、以下の体制をとっている。

(千葉大学医学部附属病院患者支援部)

県内の情報収集、23地区医師会訪問、県医師会との連携

(千葉大学予防医学センター)

疫学的解析、健康・介護・医療関連企業との連携

(千葉大学大学院医学研究院附属超高齢社会研究センター)

情報分析と千葉県および市町村との検討

(千葉大学医学部附属病院総合医療教育研修センター)

将来像に基づく教育プランの策定と実施

これら4部門が学内で連携して学生教育を進めている。

- ・東千葉メディカルセンターでは千葉大学と「千葉大学医学部附属病院東金九十九里地域臨床教育センター」の協定を締結している。この千葉大学との連携のもと、臨床研修医や専攻医の教育に取り組んでいる。
- ・千葉県では、医学を学ぶ大学生を対象に、将来、千葉県で働く医師の養成を目的とした修学資金貸付制度を実施している。

【今後の計画】

- ・社会的な視点をもった医療者を育てるために、今後もPDCAサイクルを用いて発展させていく。

改善状況を示す根拠資料

資料Q8.5-1 東千葉メディカルセンターHP

<https://www.tkmedical.jp/department/>

資料B4.1-5 千葉県医師修学資金貸付制度（千葉県HP）

<https://www.pref.chiba.lg.jp/iryuu/ishi/ishikakuho/gakusei/kashitsuke.html#kakukosunogaiyou>

9. 継続的改良

改善のための助言にもとづいて、自己点検・評価委員会が中心となって第4期中期目標・中期計画にしたがった毎年の自己点検と改善を行いつつ、医学教育研究室の教育評価部門（IR部門）を拡充して迅速な課題発見と対応のための体制を整備していくことが今後の課題である。

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ・前回受審時に改善点として指摘された教育資源の不足などの問題に関し、医学教育リトリートや各種アンケートによる改善要望に対して迅速な対策がなされている。

改善のための助言

- ・教育（プログラム）の教育課程、構造、内容、学修成果／コンピテンシー、学生の評価ならびに学修環境を定期的に見直し、分析して課題を特定して改善する方法を早急に策定すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【改善状況】

- ・令和4年度からは第4期中期目標・中期計画（令和8年度まで）に基づいて毎年の自己点検を行い、改善している。
- ・千葉大学第4期中期計画を土台とした医学部の中期目標・中期計画に基づき、千葉大学医学部としての社会的責任を果たすため、第4期中期計画を実行している。
- ・第4期中期目標・中期計画ならびに大学機関別認証評価については、千葉大学ホームページの「国立大学法人としての公表事項」においてその詳細を公表している。
- ・毎年医学教育リトリートを開催し、千葉大学医学部の社会的責任を視野に入れ、医学教育分野別評価基準に基づいた議論を行っており、必要に応じて医学教育リトリートを新たな試みを導入するきっかけとしている。
- ・自己点検・評価委員会では、医学教育分野別評価について、改善のための助言および示唆をうけた事項について検討し、年次報告書を作成している。

【今後の計画】

- ・自己点検・評価委員会において、医学教育分野別評価について改善のための助言および示唆をうけた事項について継続して検討し、年次報告書を作成する。また、その作成にあたっては各評価項目を所掌する担当委員会に分担して現状評価と改善計画を策定し、可視化された課題については所掌委員会においてPDCAサイクルを回すことでより効率的かつ継続的に改善が図れるようにする。

改善状況を示す根拠資料

資料 B3. 2-13 2021 年度医学教育リトリート報告書

資料 Q2. 6-2 2022 年度医学教育リトリート報告書

資料 Q8. 4-4 第4期中期目標・中期計画

資料 B1. 2-1 医学研究院・医学部常置委員会委員一覧（2022年7月1日現在）

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・評価を実施せず。

改善のための示唆

- ・評価を実施せず。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【現在の状況】

- ・第4期中期目標・中期計画（令和4年度～令和8年度）の年度計画に記載した事

項について毎年自己点検を行ない、教育改善を図っている。

- ・前向き調査と分析を医学教育研究室が推進し、教育改善について医学教育に関する文献に基づいた行動計画立案を行っている。
- ・毎年開催する医学教育リトリートにおいて、教育に関するテーマをいくつか設定して幅広い教員や学生と意見交換を行っている。
- ・入学者選抜の見直しに向けたワーキンググループを編成して議論を行っている。
- ・令和2年度入学者選抜から、千葉県地域枠入試として20名の入学定員を定め、一般枠入試の97名と合わせて入学定員を117名とした。
- ・令和2年度入学者選抜から、千葉大学医学部医学科学士入学（3年次編入：MD-PhDコース）の学生募集を停止した。
- ・令和2年度に整備した医学部を含む医学系総合研究棟（治療学研究棟）のアクティブ・ラーニング・スペース、グループ学習スペース等を整備した。
- ・医学部では第4期中期目標・中期計画における年度計画（教育資源：計画No. 19、学生の修学、生活、進路支援：計画No. 22、入学者受入方針：計画No. 31、No. 32、教員の配置計画：計画No. 42等）に関連する事項について定期的に自己点検し改善している。
- ・教育・研究を適切に管理・運営するために各研究領域の教員間のバランス等の基本方針を、令和4年度に公表した千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想2022において定め、本構想に基づき教員の募集と選抜が行われている。実際の教員の募集・選抜については、「国立大学法人千葉大学における大学教員の選考に際しての事前協議等の取扱いについて」に基づき行われている。
- ・千葉大学医学部学生の卒業時まで達成すべき学修成果（アウトカム）の改訂に向けて、2022年6月に、医学部における学修成果の達成やカリキュラムの影響を評価するため、本学を卒業した臨床研修医（千葉大学医学部附属病院臨床研修医、千葉大学医学部附属病院以外の臨床研修医）に対し、インタビューを行った。

【今後の計画】

- ・第4期中期目標・中期計画（令和4年度～令和8年度）に記載した事項について毎年自己点検を行ない、教育改善を図っていく。
- ・第4期中期計画期間のPDCAサイクルを設定し、年度毎に実行する。
- ・自己点検・評価委員会を定期的に開催し、カリキュラムモデルと教育方法、評価方法（評価の方針や試験回数を含む）の確認を行う。
- ・基礎医学、臨床医学、行動及び社会医学の進歩、人口動態や集団の健康／疾患特性、社会経済および文化的環境の変化など、社会の変化に関連する主要な教育関連テーマについては、毎年開催する医学教育リトリートのテーマの一つとして取り上げ、改善に向けて意見交換を行う。

- ・千葉大学大学院医学研究院・医学部では令和4年度に公表したグランドデザイン 将来構想 2022 を実現していく。
- ・全学の教員人事調整委員会において、「第4期中期目標期間における教員人事計画」に基づき検討を行い、グローバルプロミネント研究基幹、国際学術研究院及び医学研究院（亥鼻高機能化構想）などに教員の重点配置を行っている。今後も教員人事調整委員会において、限られた採用枠の中、全学的な視点から、効果的な重点再配置を促進していく。
- ・医学教育研究室や千葉大学医学部附属病院総合医療教育研修センターのIR部門を拡充し、教育の教育課程、構造、内容、学修成果／コンピテンシー、学生の評価ならびに学修環境について定期的に分析して課題を特定していく体制を構築していく。
- ・医学教育研究室の教育評価部門（IR部門）を拡充し、迅速な現状評価を実現し、課題の発見と対応に寄与する。

改善状況を示す根拠資料

資料 Q8. 4-4 第4期中期目標・中期計画

資料 Q2. 6-2 2022年度医学教育リトリート報告書

資料 Q9-3 進級判定資料

資料 B7. 2-5 令和4年度年度授業評価アンケート結果

資料 Q2. 2-2 2022年度千葉大学医学部卒業時学生調査 集計結果抜粋

資料 B2. 5-3 千葉大学大学院医学研究院のグランドデザイン将来構想 2022

資料 B4. 1-1 千葉大学年度計画「入学者の受け入れ方針」の検証

資料 Q9-8 国立大学法人千葉大学における大学教員の選考に際しての事前協議等の取扱いについて

資料 Q9-9 国立大学法人千葉大学における大学教員の選考に関する規程

資料 Q9-10 経歴調書（雛形）